

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

～ も く じ ～

	(頁)
1 事業計画重点事項に関する総括	1～
2 法人運営に関する事業	5～
3 “ともにいきるまち宗像” 推進事業の充実	7～
4 広報公聴活動の推進	18～
5 高齢者福祉事業の推進	18～
6 障がい児者福祉事業の推進	24～
7 低所得者福祉事業の推進	26～
8 子育て子育て・母子寡婦福祉支援事業の推進	27～
9 福祉教育の推進	28～
10 活動財源の確保	33
11 ボランティア活動・市民活動の促進	33～
12 赤い羽根共同募金運動への協力	37
13 障害者生活支援センター運営事業	37～
14 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業	43
15 介護保険事業の適切な運営	43～
16 指定障害サービス事業の適切な運営	45
17 市受託事業の適切な運営	46
18 スマイルハート事業	46
19 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業	47～
■事業報告書資料集	51～
○社会福祉協議会及び宗像市社会福祉協議会の概況	
○用語の説明	

1 令和5年度事業計画重点項目に関する総括

本会は、事業計画に掲げた基本方針を踏まえて、地域福祉の推進役としての役割を果たすべく、宗像市をはじめ地域及び各関係機関・団体との連携・協働のもと、様々な福祉事業に取り組みました。

基本方針に掲げた重点項目の実施状況は、以下のとおりです。

(1) 第4次地域福祉活動計画に基づく本会経営・事業の実施（計画年度：H27～R6年度）

■令和2年度に見直しを行った本計画に沿って事業を継続して取り組むとともに、「地域共生社会の実現」に向け、今後社協が果たすべき役割やビジョンの明確化を図ります。また本計画が令和6年度に最終年度を迎えることも考慮しながら、市保健福祉計画（地域福祉計画を含む）との整合を図り、行政とも連携を深めます。

【実施状況】

■第4次地域福祉活動計画に基づき、これから目指すべき方向性を認識しながら、子ども・高齢者・障がい者など全ての人が自分の住み慣れた地域で豊かさを実感できる『地域共生社会の実現』に向けた地域福祉事業の取り組みを進めました。

また、国の重層的支援体制整備事業創設等により、相談支援体制の充実や地域づくりの重要性が明確になり、社協が担うべき役割が増大する中において人材確保を重点課題と位置づけ、宗像市関係部署と連携を図り、働きやすい職場環境の整備や賃金・労働条件に関する諸規程の改正を行いました。

(2) 福祉教育の推進

■地域福祉を推進する基本的な取り組みとして、学校等で実施する福祉教育にとどまらず、あらゆる事業場を福祉教育の機会として捉え、「地域共生社会の実現」に向けた基盤づくりを進めます。

【実施状況】

■令和5年度の福祉教育は、多くの学校でオンライン等を交えながら、様々な学習を行うことができました。福祉ボランティア団体や障がいのある方、シニアクラブや福祉会など地域住民の協力も得ながら、小中一貫コミュニティ・スクールにおける9ヶ年の計画的な福祉教育の取り組みを目指し、学校に対する継続的な協力を行いました。

(3) 社会福祉法人による公益的な取り組みの推進

■社会福祉法人が連携・協働し、地域のニーズや福祉課題を受け止め、公益的な活動に取り組むことで、安心して暮らせる地域づくりに貢献することが求められています。地域貢献を目的に設立された、宗像市社会福祉法人連絡会の事務局を担い、連絡会の活動支援及び周知・広報に努めます。

【実施状況】

■令和5年度は、役員会を9回、総会（1回）及び学習会（3回）をオンライン・集合形式併用で開催し、情報共有と意見交換を行い、連絡会設立の意義でもある「法人間のつながり・連携」の向上を図りました。

地域貢献活動については、各法人の取り組み状況について本会ホームページに掲載し、周知・案内に努めました。

(4) 地域の福祉課題を解決するための事業の充実

■地域包括ケアシステム関連事業の柱の一つである生活支援体制整備事業（委託事業）は、社協が従来から住民主体を基本として進めてきた地域福祉活動の推進と一体的に進め、地域における「つながり」をさらに広げ、住民相互の支え合いの地域づくりを進めます。

事業の推進は、第1層（市全体）を市直営で、第2層（中学校圏域）を社協とで分担し、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）が相互に連携をとりながら、地域資源の開発とネットワーク化等に取り組み、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備を推進します。

また、地域住民と専門職、福祉団体、関連事業所等が一体となって、地域の支え合いによる地域づくりを推進する場「協議体（地域支え合い会議）」の活性化を目指します。

■認知症施策推進事業（委託事業）では、令和元年6月に示された「認知症施策推進大綱」に基づき、

認知症地域支援推進員及びチームオレンジコーディネーターを中心に、認知症サポーターの養成事業をはじめ、認知症地域支援・ケア向上事業、サポーター活動促進・地域づくり事業等へと展開を拡げ、「チームオレンジ」を基盤とした、認知症にやさしいまちづくりに取り組みます。

【実施状況】

- 地域包括ケアシステムの主要事業である生活支援体制整備事業（市委託）では、第2層地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）を全ての日常生活圏域（6圏域）に各1名を配置し、第1層（市）と連携しながら事業を推進しました。「協議体」においては、地域住民をはじめ事業所や施設、病院、商店、学校など地域に関わる関係者が集まり、地域の通いの場や生活支援について、また地域の課題やその課題解決に向けた話し合いを行いました。また、「協議体」の開催については、地域の実情に応じコミュニティ単位と並行して、一部地域では町内会・自治会単位、小学校単位で開催しました。そのほか、地域で主体的に取り組まれている多様な活動等を取材し、地域資源カードとして作成したものを紹介するなど地域資源（地域のお宝）啓発に努めました。
- 認知症施策推進事業（市委託）では、チームオレンジコーディネーター（社協・認知症地域支援推進員）を配置し、基幹型及び各圏域の地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と連携を図り、事業を推進しました。認知症サポーターの養成、オレンジカフェの推進と併せて令和5年度よりチームオレンジサポーターの登録及びサポーターミーティングを定期的に開催し、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らすための活動に取り組みました。また、認知症本人を中心に集まり、互いの経験や希望、必要としていることを語り合い、これからは希望を持って暮らせるよう交流する場「本人ミーティング」においては、これまでの「それでいい!!」「花さく会」に加え、「花さく会 囲碁の会」「まっちゃんの家」を立ち上げるとともに「王将の会」の立ち上げ準備を進めるなど、本事業の拡充に努めました。

（5）高齢者や障がいのある人への権利擁護事業の充実

- 日常生活自立支援事業（県社協委託）やライフサポート事業（独自事業）及び法人後見事業を実施し、認知症高齢者や障がいのある人の尊厳ある暮らしの実現と自己決定支援を行います。
- 成年後見制度の利用を促進するため、市が運営する中核機関と連携を図りながら、権利擁護体制の充実を図ります。

【実施状況】

- ライフサポート事業、日常生活自立支援事業の利用ニーズは多く、新規相談は増えています。今年度は利用者の成年後見制度移行も含めて、迅速に対応できるよう職員体制の整備を図りました。また、利用者を取り巻く様々な環境に対応するため、各法律の専門家や関係機関と連携を図りながら継続した支援を行いました。
- 法人後見事業においては、ライフサポート事業等利用者の判断能力や身体状況等を勘案しながら、必要に応じて法人後見へ移行を検討するなど、市関係部署と連携を図りました。また、定例の法人後見運営委員会を開催し、利用者の支援の現状と課題について報告を行いました。

（6）障害者生活支援センター並びに障害者虐待防止センター事業の充実

- 障がいのある人やその家族を対象に、障がい福祉サービスの利用援助や生活全般に関する相談支援などを行います。支援にあたっては、本人の意思決定を尊重した利用者本位の視点で取り組みます。
- 基幹相談支援センターとして、地域の相談支援事業所が行う「計画相談支援」への助言・指導、支援を行います。また、障害者自立支援協議会との連携を図り、困難事例への対応や当センター職員も含めた関係者の資質向上に努めます。
- 障害者虐待防止センターとして、障がい者虐待の早期発見や迅速な対応を行います。また、障がい者福祉施設等を対象にした研修を実施し、虐待の未然防止に努めます。

【実施状況】

- 障がいのある人やその家族の相談内容に応じて、障がい福祉サービス事業所や教育・医療・行政などの関係機関、地域と必要な連携を図り、本人の意思を尊重した利用者本位の支援に努めました。
- 基幹相談支援センターとして、中立・公平な相談支援事業を実施するとともに、市における相談支援の中核的な役割を担い、相談支援事業所が行う「計画相談支援」への助言・指導、支援に努めました。また、職員の知識の研鑽・資質の向上を図るために、各種研修等へ積極的に参

加しました。

- 関係機関や事業所、地域との連携を図り、地域課題の解決に向けて、市と協働して障害者自立支援協議会の運営に努めました。新たな取り組みとしての「子ども部会」では「医療的ケア児者支援連携会議」、また、「地域移行・地域生活支援部会」では「精神障がい者支援連携会議」を実施しました。
- 障害者虐待防止センターとして、虐待通報や相談等に迅速かつ適切に対応しました。また、障がい福祉施設等を対象とした虐待防止に関する研修を実施しました。事業所は従業員への研修を定期的に行うことが義務化されたことを受け、各事業所での虐待防止研修会に活用できるよう動画配信による虐待防止研修会を開催しました。

(7) 宗像市ボランティアセンター事業の充実

- 令和5年度から新たなボランティアネットワークシステムの運用(委託事業)を開始し、ボランティア活動のさらなる活性化を図ります。引き続きボランティア活動の希望や依頼に関する情報を集約・一元化し、市内のボランティア資源を活用しながら、様々なボランティア活動の調整業務を行います。
- 地域のニーズに応じた福祉ボランティアの養成と支援、連携と協働による活動を展開していきます。
- 障害者差別解消法による合理的配慮の観点から、視覚や聴覚等に障がいのある人への情報伝達の手段・方法である手話や点字、声の広報や要約筆記等に関するボランティア活動の充実に努めます。
- 学校などにおける福祉教育では、ボランティアが参加・協力する機会が増えていることから福祉教育活動とボランティア活動との連携・強化に努めます。また、福祉教育の一環として小学生や中学生向けのボランティア講座も実施します。

【実施状況】

- ボランティア活動においてもコロナ禍以前の状況に戻り、ボランティア活動団体の支援やボランティアを必要とする方への対応など、ニーズに応じたコーディネート業務に努めました。また、ボランティアネットワークシステム「V-net」のリニューアルとボランティアしてほしい人としてほしい人をWEBでつなぐ新たなシステム「むなかたボランティアネットワーク(MVS)」を導入し、運用を開始しました。
- 小学生高学年を対象とした「ジュニアボランティアスクール」は、令和5年度の新たな取り組みとして、ろう劇団博多、演奏家、手話サークルの協力を得て、障がいのある人もない人も共に楽しめる垣根のないコンサート「バリアフリーコンサート」を子どもたちと一緒に企画から考え開催しました。また、市民向けに開催したボランティア入門講座では、「盲導犬に関わるボランティア」をテーマに、盲導犬ユーザーを講師に招き盲導犬に関わるボランティアの必要性など盲導犬についての理解を深める内容で実施しました。講座の最後には「むなかたボランティアネットワークシステム」の説明・案内を行い、ボランティア活動への幅広い選択の機会としました。

(8) 宗像市発達支援センター療育施設のぞみ園の経営改善と利用者へのサービスの充実

- 保育所や幼稚園等を利用している発達に課題や心配のある幼児らが、適切な保育や教育が受けられるよう「保育所等訪問支援事業」を新たに実施します。
- 発達支援センターの療育部門として、発達に課題や心配のある幼児やその保護者に対し、サービス等利用計画に基づいて個別支援計画を作成し、支援計画に添った療育の実施・評価・見直しを行うなど、相談から療育まで統一的な発達の支援を行います。
- 年々増え続ける発達に課題のある幼児やその保護者に合わせた個別指導や、グループ指導などの多様な療育の充実を図ります。また、定期的に保護者からの聞き取りを行い、現状における評価とニーズを捉えた上で、個別支援会議を実施し、療育内容の見直しやクラス編成等の見直しを行います。
- 園の安全上の課題に対応するため、国や県の指導に基づき「防災・防犯計画」の適切な運営や「業務継続計画(BCP・令和6年度義務化)」を策定します。また療育等の職員スキルや施設の衛生環境の向上を目的とした、視察研修や各種研修会への参加、症例検討会、園内研修、新任職員研修等の充実を図ります。

- 障害児相談支援事業所として、発達に課題や心配のある幼児とその家族のニーズを捉え、的確にサービス等利用計画が立てられるよう、必要な各種研修会等へ参加するなど、体制の整備を図ります。また、家族等からの相談に対し、地域資源や福祉制度についての的確なアドバイスが行えるよう、他事業所や各関係機関との連携や情報交換等を行います。
- 令和5年度から開始する国保連への利用料請求事務や、関係法令の改正等に伴う具体的な障害者虐待防止対策など、新たな事務や人員配置等が発生するため、法令遵守を徹底し適切な運営に努めます。

【実施状況】

- 課題のある児童やその保護者等に効果的な療育や家庭支援の充実を図るため、「相談」から「療育」の場面まで統一感のある支援を意識したサービスを提供しました。
また、増え続ける発達支援ニーズへの「量的」な対応とともに、「質的」な充実を図ることが重要であることから、宗像市の施策展開における現場を担う立場から「現状」と「課題」を整理し、行政と共有するための協議を重ね、中でも人的な体制確保は最重要であるため、先行して専門職や有資格者の確保・拡充及び育成を進めました。
- これからの方向性として、単独の事業所内での療育サービスの提供だけにとどまらず、当事者の日常生活の場となる保育所や幼稚園等とも連携した「保育所等訪問支援事業」を開始し、一方で相談支援事業所「のぞみ」においても地域の関係機関、事業所等との連携を積極的に広げ、特性に応じた支援が地域的に繋がることを目指した取り組みを始めました。
このことは、宗像市が「のぞみ園」を児童福祉法に規定される「児童発達支援センター」に格上げし、地域展開を進めていく構想の第一歩であると捉えています。
- 令和5年度から、運営に必要な財源を民間事業所と同様に「国保連請求」により確保することとなったことや、関係法令の改正等による多くの義務的な取り組みが求められるようになり、法令順守の視点に基づいて、適切な運営に取り組みました。

（9）高齢者及び障がい者への介護サービス事業経営の安定化と利用者へのサービスの充実

- 「介護保険事業等経営検討会議」の指針等と「ホームヘルプステーション経営改善計画」ならびに「居宅介護支援センター経営改善計画」を実行します。また、「業務継続計画（BCP・令和6年度義務化）」の策定を推進し、継続するコロナ禍に適正対処し、事業を止めることなく事業の継続に努めます。
- 本会が行う介護保険法や障害者総合支援法に関連する事業の経営が、次期介護保険法等改正後も維持できる体制整備の推進、具体的な業務の見直しや改善を継続して行います。

【実施状況】

- 事業計画書に基づく円滑で適正な事業運営に努めました。また福岡県による「居宅介護・同行援護」事業の指定更新、令和5年度末に期限を迎える「衛生管理等に関する指針」の策定、業務継続計画（自然災害編・感染症編）の策定など関係法令等を遵守した適切な運営と事業の遂行に努めました。
- アフターコロナへの取り組みとして、両係とも事業所経営を正常化するため、業務改善計画に基づき業務改善に努めました。また、国の令和6年度介護保険法改正と介護報酬等改定に対処するため、各種研修や説明会に参加し、令和6年度以降適切な事業所運営ができるよう事前の対策・準備に努めました。

2 法人運営に関する事業

(1) 本会の運営に関する事業

■理事会の開催【3回開催 12議案】

開催時期・会場	議案番号	議案
第1回 ■令和5年 6月9日 ■メイトム宗像 203会議室	第1号	評議員候補者の推薦について
	第2号	令和4年度事業報告について
	第3号	令和4年度決算報告並びに監査報告について
	第4号	令和5年度第2回評議員会の日時及び場所並びに議題・議案について
第2回 ■令和5年 6月29日 ■メイトム宗像 203会議室	第5号	会長の選任について
	第6号	副会長の選任について
	第7号	常務理事の選任について
	第10号	評議員候補者の推薦について
第3回 ■令和6年 3月7日 ■メイトム宗像 202会議室	第8号	嘱託職員の給与に関する規程の一部改正について
	第9号	臨時職員の賃金に関する規程の一部改正について
	第10号	令和6年度事業計画(案)について
	第11号	令和6年度予算(案)について
	第12号	令和6年度第1回評議員会の日時及び場所並びに議題・議案について

■評議員会の開催【2回開催 19議案】

開催時期・会場	議案番号	議案
第1回 ■令和5年 6月29日 ■メイトム宗像 202会議室	第1号～12号	理事の選任について
	第13号・14号	監事の選任について
	第15号	令和4年度事業報告について
	第16号	令和4年度決算報告並びに監査報告について
	第17号	理事の選任について
第2回 ■令和6年 3月21日 ■メイトム宗像 202会議室	第18号	令和6年度事業計画(案)について
	第19号	令和6年度予算(案)について

(2) 経営戦略会議の開催

- 事業説明：本会の運営に関する諸事項について、基本的な方針を検討・決定する会議。
- 出席者数：会長・常務理事・事務局長・総務福祉課長・居宅介護課長・のぞみ園長
- 開催時期：毎月最終水曜日

(3) 計画的な職員研修の開催

- 事業説明：社会福祉の現場で働く職員として必要な安全運転や人権等の研修を実施。

実施事業	実施時期	主な活動内容
安全運転管理者講習会	■6月22日 宗像ユリックス	対象者：居宅介護課長、総務福祉課長 出席者数：2人 内容：道路交通法に定められた安全運転管理者の講習会。
職員人権研修会	■3月19日 ■メイトム宗像 202会議室	対象者：原則として常勤日勤臨時職員以上。 出席者数：43人 演 題：『みんなが笑顔でくらすために』 講 師：福津市役所 人権政策課 人権啓発指導員 芳賀 求 氏

(4) 定例監査の実施

- 事業説明：法人の適切な経営を行うため、年3回定期的に監事による会計等の監査を実施。決算監査の結果については、年度の第1回理事会・評議員会にて報告。

(5) 労働安全衛生委員会の実施

- 事業説明：本会の労働安全衛生や労働環境に関する諸事項について、基本的な方針を検討・決定する会議。
- 委 員：事務局長・総務福祉課長・居宅介護課長・衛生管理者・各部署代表等
- 開催時期：偶数月の第2木曜日

(6) 宗像市社会福祉法人連絡会の運営支援

- 事業説明：宗像市内に事業所のある25の社会福祉法人で構成する「宗像市社会福祉法人連絡会」が、平成30年11月に発足。現在、29法人のうち28法人で構成。本会は事務局として、役員会・全体会議兼実務者会議等の運営を行った。

■会議等

役員会	4/12, 5/17, 6/14, 7/12, 9/6, 10/10, 11/8, 12/8, 2/28
総会・学習会	4/27 23法人参加 学習会：「福祉サービス利用に係る申請手続きの流れについて」各分野代表者による発表
全体会議兼実務者会議	8/22 36人参加 学習会：「人材の育成と定着に向けて取り組めること」～持続発展に繋げていくために～ ※オンライン・集合形式併用 1/26 35人参加 学習会：「ハラスメントに関する研修」～ハラスメントがない組織づくりのために～ ※オンライン・集合形式併用

3 “ともにいきるまち宗像” 推進事業の充実

(1) 生活支援体制整備事業（市委託事業）

■事業説明

平成31年4月に宗像市より事業の委託を受け、市内全域を圏域とする第1層、中学校区を圏域とする第2層を受託。令和2年度からは第2層を受託し、6圏域に地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)を配置。また、コミュニティごとに設置している「協議体」の運営や既存の活動の把握、および地域資源等新たな活動の創出に向けた取り組み等を行った。

■事業内容：

第2層（圏域/中学校区/6圏域）

■職員体制：第2層地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)6人

■業務内容：

(1) 協議体の設置・運営

- ・コミュニティごとに12の協議体を設置し、各地域の実情や課題に応じたテーマをもとに話し合いの場(協議体)を設けた。
- ・協議体(話し合いの場)には、地域の住民をはじめ、コミュニティ、事業所、商店、施設、学校等の関係者が参加した。

地区	協議体の名称	開催日	話し合いのテーマ(抜粋)
吉武	よしたけふくしの郷づくり	4/29、5/25、10/5、11/15	通いの場の立ち上げについて
赤間	赤馬快堂	【田久】6/21	「福祉講演会後に座談会」形式 ・おしゃべり会を立ち上げませんか(社協からのお話-お茶会)
赤間西	あかにこの輪	9/12	・通いの場の状況報告・意見交換
自由ヶ丘	おかりん家族	4/4、7/19、10/6、1/18、3/13	・区会ごとに取り組みたいことを考えよう！ ・通いの場の効果と必要性について ・自分たちにできる支え合い・助け合い活動について
河東	かとうの星	【地区】3/9 【本村】9/27 【河東】10/7 【天平台】10/10	【地区】通いの場を継続するためのアイデアについて話しましょう 【本村】本村のいきいきサロンのこれからについて話し合いましょう 【河東】河東ふれあい倶楽部のこれからについて 【天平台】ノルディックウォーキング再開に向けて
南郷	南 GO!このみ隊	8/31、3/22 【大穂】9/5、12/5	・地域でやってみたいことについて ・通いの場を続けていくためのアイデアについて ・新しい通いの場の活動内容について
東郷	やよい東郷	8/25、10/24、3/7	・認知症について ・認知症になっても地域で暮らし続けるためのアイデアについて
日の里	いきいき日の里	【日の里西小校区】3/19 【3丁目】6/12、9/11、2/19 【AP1区】11/4	【日の里西小校区】 ・スマホ教室のふりかえりと地域の方(高齢者)との交流について意見交換しよう!～日の里中学校お試し通いの場の企画会議～ 【日の里3丁目】 ・“日の里3丁目いこいの場「さんさん広場」”のふり返りと今後の取り組みに向けた検討～ ・「日の里3丁目さんさん広場のこれからについて話し合いましょう」 ・9月、11月のさんさん広場をふりかえり、次

			年度のさんさん広場の方向性について意見交換しましょう。 【AP1 区】 日の里 AP1 区自由サロンのこれからについて話し合いましょう～他地域の住民の受入れや料金のこと、どうする?～
玄海	玄海しゃべり Bar	4/27、6/22、9/12、11/9、3/14	ラジオ体操について/地域活動について振り返り
池野	池野わくわく茶屋	3/22	わくわく茶屋についての振り返りと今後について
岬	鐘崎ノーサ BAR	3/19	令和 5 年度の振り返りと令和 6 年度の方向性について
大島	しまみん	10/24、2/8	島の情報共有

(2) 地域資源の把握と創出

- ・「地域のお宝探してます」パンフレット等を活用し、住民等から地域資源の情報収集を行うとともに、直接地域の取材に行き地域資源の把握を行った。また、把握した地域資源をまとめ、地域包括支援センター等へ情報提供を行った。

(3) 地域ケア会議への参加

- ・各地域包括支援センターにおける地域ケア会議に出席し、地域資源などの情報提供を行った。

(4) 宗像市との連携

- ・委託元の宗像市（高齢者支援課）と連携し、圏域別連携会議、連絡調整会議及び宗像市との定例会議を開催し情報共有を行った。

(2) 福祉会組織化・育成事業

①福祉会組織化・育成事業

■福祉会とは

福祉会は、自分の住んでいる地域を住民の手で（＝参画・協働）誰もが生活しやすいように（＝共生社会）活動を行う（＝福祉力を高める）住民の自主的な組織であり、自治会単位（小地域）の福祉会を「小地域福祉会」、13 地区コミュニティ単位の福祉会を「地区福祉会」と称している。

■福祉会組織化の経緯

福祉会は、宗像市社会福祉協議会基盤強化計画書（昭和 61 年 1 月策定）にて、“活動のための組織体制強化策”として始めた事業。昭和 62 年に「小地域福祉会組織化事業」が開始され、昭和 63 年 4 月に自由ヶ丘地区に本市で最初の福祉会「自由ヶ丘地区社会福祉会（現：自由ヶ丘地区福祉会）」が発足した。その後、各地域で福祉会が組織化された。平成 10 年 7 月 10 日に赤間西地区福祉会が発足し、旧宗像市においては市内 8 地区全域に福祉会が組織化された。平成 15 年 4 月 1 日に玄海町と宗像市が合併、これに伴い両社会福祉協議会も平成 15 年 3 月 31 日に合併、新たな福祉会の組織化が平成 15 年度に再開した。平成 15 年 9 月 21 日に神湊地区福祉会が発会、平成 16 年 1 月 25 日の田島地区福祉会の発会をもって、旧玄海町 4 地区（市内 12 地区）全域に地区福祉会が組織化された。平成 17 年 3 月 31 日には、本会が大島村社会福祉協議会と合併したのを機に、大島村福祉会（現：大島地区福祉会）が宗像市 13 番目の地区福祉会となった。

■各福祉会の取り組み

※【 】は地区福祉会

地区	福祉会名	主な活動内容
吉武地区	【吉武地区福祉会】	見守りネットワーク活動「孝行ネットボトル」利用推進、介護予防いきいき交流会「よしたけ広場」(5 回)、バスハイク、よしたけ福祉の郷づくりサロン協力、福祉教育(吉武小)への協力、世代間交流
赤間地区	【赤間地区福祉会】	役員会 8 回、定例会(8回)、先進地研修、花見会(雨の為中止)
	赤間区福祉会	福祉会花壇作業(10 回)、介護予防いきいき交流会事業(11 回)、敬老祝賀記念品配付
	石丸区福祉会	介護予防いきいき交流会(2回)、世代間交流事業さつまいも収穫祭、どんど焼き、役員会(10回)

	徳重区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(5回:バスハイク、グラウンドゴルフ、ニュースポーツ等)、道路クリーン活動、世代間交流事業(どんど焼き)、70歳以上世帯お餅配布。
	田久区福祉会	介護予防いきいき交流会(4回)
	陵巖寺区福祉会	陵巖寺いきいきサロン(フリーサロンとして9回:ウォーキング、茶話会、ゲーム等)、広報誌「きぬがさ」発行(年6回)
	三郎丸団地区福祉会	介護予防いきいき交流会(2回)高齢者への心配り活動(団地内)、敬老祝賀会(9/30)、花の苗植栽(9/16、28)
	広陵台1丁目福祉会	介護予防いきいき交流会(26回)、ラジオ体操、子ども登校見守り事業、元気アップ運動教室、道路クリーン事業、
	葉山区福祉会	介護予防いきいき交流会(3回)ふれあい訪問(シクラメン配付)、世代間交流事業(サツマイモ苗植え)、一人暮らし高齢者見守り活動、分別収集・廃品回収の手伝い
	名残区福祉会	介護予防いきいき交流会(2回)
	富地原区福祉会	介護予防いきいき交流会(2回)環境保全活動(清掃)(愛宕神社4回、県道6回)
赤間西地区	【赤間西地区福祉会】	見守りネットワーク活動の推進、各地域に合った通いの場・居場所づくりの推進及び活動地域の充実化、シルバー農園支援、地域ボランティア事業の継続とボランティア活動の推進、ステップアップ研修、「きらめき赤間西」に広報掲載、サロン調整会議(福祉会長会)
	土穴区福祉会	高齢者訪問活動(1回/月)、訪問活動報告会(奇数月)、玄米ニギニギ体操(月/2回)、乙女の会(9回/年)、介護予防いきいき交流会事業(9回/年)
	城ヶ谷区福祉会	見守り声かけ助け合い活動、介護予防いきいき交流会事業、朝のラジオ体操、城ヶ谷見守りネットワーク、包丁研ぎ、小学校登下校防犯パトロール(登校時:31回、下校時:41回)
	赤間ヶ丘1区福祉会	介護予防いきいき交流会、事業(5回:のどか寄席、敬老祝賀会、体を動かしながら楽しく脳トレ、子ども会共催マジックショー、運動指導/太極拳)
	赤間ヶ丘2区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(6回:さくらカフェ、さつきカフェ、あじさいカフェ等、健康チェック)、声かけあいさつ運動(登校時のべ137回、下校時のべ99回)、防災・防犯パトロール5回、刃物研ぎ:年2回58丁
	三郎丸福祉会	介護予防いきいき交流会事業(6回:お宮・お堂を守る会、ニギニギ体操、三郎丸バンドなど:6回)、刃物研ぎ(3回/年)、子どもたちとの触れ合い活動、登校時の声かけ(2回/月:66人)、下校時見守り(随時/90人)
	城山区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(12回)、下校時子ども見守り活動(47回)、登校時見守り活動(179回)、刃物研ぎ(5回/年、延べ70本)
	大谷区福祉会	介護予防いきいき交流会事業介護予防いきいき交流会事業(5回:ニュースポーツ、コグニサイズ、宗像落語会、DVD上映、健康チェック)、自治会・福祉会役員会(12回)、冬のお楽しみ会(12/17)
	泉ヶ丘1丁目福祉会	介護予防いきいき交流会(8回:ケアビクス、ニュースポーツ、敬老祝賀会、理学療法士による運動指導、演奏会等)、敬老祝賀会記念品贈呈
	泉ヶ丘2丁目福祉会	介護予防いきいき交流会事業(5回)、どんど焼き(1/8)、秋のレクリエーション(10/29)、にこにこカフェの開催(6回)、福祉ボランティアの会活動、福祉ボランティアの会世話人会議、広報活動、買い物支援、公民館での朝市開催

	アーサー赤間駅前 福祉会	七夕祭り、敬老祝賀訪問記念品贈呈(38人)、防火訓練
	アンピール赤間駅前 福祉会	七夕祭り(7月)、敬老祝賀会(9月)、クリスマスツリー飾り(12月)
自由ヶ丘地区	【自由ヶ丘地区福祉会】	福祉委員による見守りネットワーク活動(65歳以上独居者・80歳以上の高齢者・その他対象者)、介護予防いきいき交流会事業(8ヶ所/3回)、小地域福祉会の組織化の推進、見守り活動用配布紙「お元気ですか」や地区福祉だより「ほほえみあい」の内容の充実、福祉情報連絡会の開催(区会単位で年6～12回開催)、コミュニティ関係団体との連携強化
河東地区	【河東地区福祉会】	情報交流会、役員会、先進地研修、3地区福祉会交流会、出前講座
	須恵区福祉会	見守り訪問活動、3者ミーティング(民生委員・福祉会・あじさいの会)
	福崎区福祉会	※新型コロナウイルス感染予防のため未実施
	ひかりヶ丘福祉会	フリーサロン、シニアテニス、介護予防いきいき交流会事業(7回)、見守り訪問活動、生活支援隊活動、声かけ安全パトロール、世代間交流事業、福祉だよりの発行
	城西ヶ丘区福祉会	お散歩体操、いこいサロン、介護予防いきいき交流会事業(4回)、城西ヶ丘見守りネットワークむすび愛への協力、ボランティア研修
	天平台区福祉会	ふれあいカフェ(7回)、介護予防いきいき交流会事業(8回)、福祉だよりの発行
	樟陽台区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(4回)、環境美化事業、おしゃべりサロン
南郷地区	【南郷地区福祉会】	役員会、福祉協力員研修、七夕まつり、ふれあい福祉講座、バスハイク、福祉講演会、わくわく交流会、介護予防いきいき交流会事業(11か所/70回)
東郷地区	【東郷地区福祉会】	役員会、福祉委員研修及び会議、民生委員児童委員との意見交換会、介護予防いきいき交流会事業(9か所/43回)
日の里地区	【日の里地区福祉会】	ネットワーク推進会議、主任福祉員会議、おもちゃ病院、シルバー農園、介護予防いきいき交流会事業(10か所/44回)、「向こう三軒両隣りネット(ご近所ネット)」の周知・推進、各町内会福祉会による活動、福祉員の集い、日の里学園福祉教育への協力
神湊地区	【神湊地区福祉会】	花いっぱい見守り訪問活動、介護予防いきいき交流会事業(2ヶ所、計16回)
池野地区	【池野地区福祉会】	介護予防いきいき交流会事業(9回)、居場所づくり「わくわく茶屋」6ヶ所)、テニピン
岬地区	【岬地区福祉会】	いきいきふれあいサロン(1回)、いきいきラジオ体操(年3回)、健康福祉協力員研修、運営委員会、視察研修、福祉講演会、クリスマス会
田島地区	【田島地区福祉会】	70歳以上一人暮らし見守り訪問活動、地域助成事業、介護予防いきいき交流会事業(3か所 計18回)
大島地区	【大島地区福祉会】	各区おしゃべり会

②地域ネットワーク活動の充実(各福祉会の取り組み参照)

- 事業説明：小地域(見守り)ネットワーク活動とは、民生委員児童委員、福祉会の福祉委員・福祉員・福祉協力員等の地域ケア型ボランティア、シニアクラブ、地域の事業所が連携・協力して、単身高齢者世帯等への定期的な見守り・訪問活動・できる範囲での生活援助活動などを行う取り組み。

(3) 介護予防いきいき交流会事業の実施と事業の充実（市委託事業）

①介護予防いきいき交流会事業

■事業説明：高齢者の閉じこもり予防や日常の健康を維持することを目的とした「いきいきふれあいサロン活動」を活用し、介護予防の内容を充実させた事業を行っている。
 なお、介護予防いきいき交流会事業には、「地島ミニデイサービス」と「おおしまDEいきいき元気教室」も含まれる。

■事業内容：●各区、町内会で行われている高齢者等を対象にしたサロン活動において、血圧、体脂肪等の測定及び簡単な健康相談などの健康チェックを実施。

●介護予防メニューとして、口腔ケア、栄養指導、運動指導を実施。

■運営体制：市からの委託事業。各福祉会が実施し、本会は支援、連絡調整などを行っている。

地区ごとの実施状況	開催箇所 (単位：ヶ所)	開催回数 (単位：回)	栄養指導 (単位：回)	口腔ケア (単位：回)	運動指導 (単位：回)
吉武地区	2	14	0	1	3
赤間地区	8	57	6	5	14
赤間西地区	9	62	2	1	9
自由ヶ丘地区	9	37	0	0	3
南郷地区	11	70	2	5	13
河東地区	7	48	2	3	5
東郷地区	9	43	0	3	9
日の里地区	10	44	0	1	7
池野地区	1	7	0	0	3
田島地区	3	15	0	1	4
神湊地区	2	16	1	2	9
岬地区	1	1	0	0	1
大島地区	4	9	0	0	0
合計	76	423	13	22	78

■事業実績：●延べ参加者数：7,629人（65歳以上 6,692人、64歳以下 937人）

●延べ従事者数：3,135人

●合計：10,764人

②介護予防いきいき交流会事業推進協力者研修の実施

■事業説明：いきいきふれあいサロン活動の内容の充実と活動に関わる人材育成を目的に、研修会を開催。

■事業内容：

- ・日時：令和5年6月30日(金)10:00～11:30
- ・会場：メイトム宗像 多目的ホール
- ・講演：テーマ『宗像市の介護認定から見える通いの場の必要性』
 熊本健康支援研究所 熊本大学客員教授 松尾 洋氏
- ・実践コーナー：『公民館で出来る健康レクササイズ』
 健康レクササイズ指導者 松田 由美子氏、有高 理恵子氏

参加者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	—	79人	158人

③地島ミニデイサービス事業の適切な運営

■事業説明：離島の高齢者の健康増進と介護予防を目的とした事業。毎回、健康チェックを実施している。

■実施場所：地島白浜公民館及び泊公民館

実施時期	参加者数	主な活動内容
9月27日	(白浜) 5人 (泊) 9人	健康チェック、転倒予防チェック、「転倒予防について」講話、タオル体操
10月25日	(白浜) 7人 (泊) 8人	健康チェック、宗像医師会病院介護老人保健施設よつづかについて、「転倒予防について」講話、タオル体操
11月22日	(白浜) 7人 (泊) 7人	健康チェック、管理栄養士による「歯を強くする食品」について講話、理学療法士による「転倒予防」について講話・タオル体操

④大島 DE いきいき元気教室の適切な運営

■事業説明：離島の高齢者の健康増進と介護予防を目的とした事業。毎回、健康チェックを実施している。

■実施場所：大島ふれ愛センター

実施時期	参加者数	主な活動内容
5月18日	21人	健康チェック、体力測定、転倒予防について、脳トレ・運動・ストレッチ
6月15日	15人	健康チェック、体力測定、健康寿命について、脳トレ・運動・ストレッチ
8月24日	14人	健康チェック、体力測定、健康寿命や転倒予防について、タオル体操やサイコロゲーム
9月21日	14人	健康チェック、体力測定、転倒予防とフレイル予防について、タオル体操、お手玉運び競争・ペットボトル入れゲームのチーム戦
10月19日	16人	健康チェック、体力測定、タオル体操、転倒予防についての話とタオル投げゲーム
11月16日	15人	健康チェック、体力測定、タオル体操、転倒予防についての話と握力測定、
12月14日	15人	健康チェック、体力測定、タオル体操、転倒予防・認知症について
1月18日	10人	健康チェック、体力測定、タオル体操、転倒予防についての講話・脳トレ
2月15日	17人	健康チェック、体力測定、タオル体操、嚥下について
3月21日	11人	健康チェック、体力測定、タオル体操、終活について

(4) 地区福祉会連絡協議会の活動状況

■事業説明：福祉会相互の情報交換、交流、研修等を通じ、それぞれの地域における福祉会活動を促進するとともに、市民参画型の地域福祉活動の充実を図ることを目的に平成9年に設置。13地区福祉会の代表者2名（会長、事務局長等）が協議会の理事となり、全26名で構成。

実施事業	実施時期	主な活動内容
理事会(総会)	■6月2日 ■メイトム宗像 202会議室	① 令和4年度事業報告・決算報告及び監査報告について ② 役員を選任について ③ 令和5年度事業計画・予算について
先進地視察研修	■12月1日 ■メイトム宗像 202会議室	テーマ：『生活支援体制整備事業 武雄市の取り組み』 ～武雄市生活支援（有償ボランティア）について～

		講師：医療法人 雄邦会 介護老人保健施設たんぽぽ 佐賀県武雄市 第1層生活支援コーディネーター 林 英慶 氏
情報交換会	■2月19日 ■メイトム宗像 202 会議室	テーマ：『役員の人選、後継者問題等について』 各福祉会の役員人選等について情報交換 (グループワーク)

(5) 宗像市民生委員児童委員協議会と連携・支援

- 事業説明：宗像市民生委員児童委員協議会と連携・協働し、小地域ネットワーク活動の推進、生活福祉資金の運営、歳末たすけあい募金など、様々な地域福祉活動に取り組んでいる。
- 宗像市民生委員児童委員協議会への活動費補助金の交付

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	299,000 円	299,000 円	299,000 円

(6) 宗像市シニアクラブ連合会と連携・支援

- 事業説明：宗像市シニアクラブ連合会と連携・協働し、小地域ネットワーク活動や介護予防いきいき交流会事業の推進、赤い羽根共同募金など、様々な地域福祉活動に取り組んでいる。
- 宗像市シニアクラブ連合会への活動費補助金の交付

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	512,000 円	512,000 円	512,000 円

(7) ライフサポート事業等の実施

① ライフサポート事業（地域福祉権利擁護事業）

- 事業説明：本会の独自事業として、高齢者、精神障がいのある人、知的障がいのある人などで判断能力が不十分な人の権利を擁護し、本人の意思に基づいて安心した生活を送ることができるよう支援する事業を平成25年8月から実施している。本事業利用の可否等を審査する「運営審議会」を奇数月（年6回）に開催している。また、これまで県社会福祉協議会が実施主体であった「日常生活自立支援事業」の市町村実施方式への移行決定に伴い、令和元年10月から事業受託を開始。
- 支援内容：①生活支援サービス…福祉サービス利用援助、定期訪問による見守り、郵便物の管理等
②生活費管理サービス…日常必要な預貯金の出し入れ等
③通帳等預かりサービス…預貯金通帳の保管や管理等
- 職員体制：生活支援員4人、市民生活支援員4人登録

■ ライフサポート事業利用者数

【3月末現在の利用者数】

項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	実績	前年比較	実績	前年比較	実績	前年比較
高齢者	14人	-4人	21人	+7人	16人	-5人
知的障がい者	11人	+2人	14人	+3人	13人	-1人
精神障がい者	12人	+4人	17人	+5人	14人	-3人
その他	3人	0人	4人	+1人	4人	0人
合計	40人	-2人	56人	+16人	47人	-9人

■ ライフサポート事業利用内容

項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	実績	前年比較	実績	前年比較	実績	前年比較
生活支援サービス	40人	+2人	56人	+16人	47人	-9人
生活費管理サービス	35人	+2人	45人	+10人	47人	-9人
通帳等預かりサービス	35人	+4人	45人	+10人	34人	-11人

■日常生活自立支援事業利用者数（福岡県社会福祉協議会委託事業）

【3月末現在の利用者数】

項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	実績	前年比較	実績	前年比較	実績	前年比較
高齢者	7人	+4人	7人	0人	5人	-2人
知的障がい者	2人	0人	3人	+1人	5人	+2人
精神障がい者	7人	+2人	7人	0人	11人	+4人
合計	16人	+6人	17人	+1人	21人	+4人

■ライフサポート事業・日常生活自立支援事業/契約・利用者の推移（単位：人）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	ライフ	自立										
高齢認知	20	7	19	7	18	7	18	7	20	7	21	5
知的障がい	14	4	14	4	15	4	15	4	14	5	14	5
精神障がい	18	7	17	8	17	8	17	8	17	8	15	9
その他	4		4		4		4		4		4	
小計	56	18	54	19	54	19	55	19	55	20	54	19
合計	74		73		73		73		75		73	

	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	ライフ	自立										
高齢認知	22	5	21	5	19	5	17	5	17	5	16	4
知的障がい	14	5	14	5	14	5	14	5	13	6	13	5
精神障がい	15	11	14	12	14	11	14	11	14	11	14	11
その他	4		4		4		4		4		4	
小計	55	21	53	22	51	21	49	21	48	22	47	20
合計	76		76		72		70		70		67	

■ライフサポート事業・日常生活自立支援事業/相談援助件数

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知高齢	161	131	132	120	197	144	184	199	210	192	160	87	1,917
知的障がい	205	182	213	209	186	150	156	164	123	144	180	86	1,998
精神障がい	146	178	163	153	162	205	236	194	165	173	213	86	2,074
その他	10	13	15	11	10	9	12	14	10	16	7	8	135
合計	522	504	523	493	555	508	588	571	508	525	560	267	6,124

②運営審議会の開催

■審議委員：弁護士、宗像市（福祉政策課保健福祉政策係長、福祉政策課障害者福祉係長、高齢者支援課地域包括支援センター職員/社会福祉士）、精神保健福祉士（宗像病院/相談員） 計5人

■開催日程と主な内容

項目	実施時期	主な内容
令和5年度 第1回審議会	5月25日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：知的1件/精神1件）
令和5年度 第2回審議会	7月27日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：4件（新規：高齢3件/知的1件）
令和5年度 第3回審議会	9月25日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：4件（新規：高齢1件/精神3件）
令和5年度 第4回審議会	1月29日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：高齢1件/精神1件）
令和5年度 第5回審議会	3月21日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：4件（新規：高齢3件/知的1件）

③その他の活動

項目	実施時期	主な内容
ケース会議	月1回 (計12回)	内 容：個別ケースの支援内容の検証と情報共有のための会議を毎月行った。
「生活支援員のつどい」の開催	10月30日	目 的：ライフサポート事業・日常生活自立支援事業担当者を対象に、支援知識の習得および支援技術の向上を目的に生活支援員同士の交流を図る意見交換会を開催。 内 容：①「認知症について学びあおう」 場 所：メイトム宗像 203会議室 参加者：市民生活支援員4人、生活支援コーディネーター等4人
福岡県日常生活自立支援事業 専門員研修会Ⅰ	6月14日	内 容：講義・演習 講義・演習：「初回相談におけるアセスメントについて」 「契約締結に至るまでの実際の専門員業務」 場 所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 1人
福岡県日常生活自立支援事業 専門員研修会Ⅱ	7月26日	内 容：説明・講義・活動報告 講義：「高齢者障害者が陥りやすい消費者被害と対策」 「見えないお金との付き合い方～進むキャッシュレス社会」 場 所：クローバープラザ東棟 508 参加者：担当職員 2人
成年後見制度利用促進研修会	8月28日	内 容：説明・講義・演習 説明：「県内市町村の取組状況と県の支援について」 講義：「権利擁護支援を土台とした包括的な支援体制の構築に向けて」 場 所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 1人
成年後見制度における市町村申立等研修会	10月31日	内容：説明・講義 講義：「成年後見制度の利用促進における市町村申立」 講義：「後見人等候補者の選定について」 場所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 2人

ひきこもり支援者研修会	7月4日	内容：演題「地域で取り組む引きこもり支援 支援者 家族にできること 支援で悩んだ時の対応を中心に」 場所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 2人
福岡県日常生活自立支援事業 専門員研修会Ⅲ	2月28日	内容：講義・事例検討 講義：「生活課題の捉え方と多職種連携について」～アセスメントと情報の共有～ 事例検討 場所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 1人
社会福祉法人が取り組む権利擁護支援研修会	2月22日	内容：講義・活動報告 講義：「社会福祉法人に求められる成年後見制度を活用した権利擁護支援について」 活動報告：「気づく！つなぐ！支える！成年後見制度を活用した権利擁護支援の取組」 場所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 4人
法人後見実施団体連絡会	3月4日	内容：「法人後見におけるリスク管理を考える 法人で貢献活動をする意義は何か」 場所：本会（オンライン研修） 参加者：担当職員 2人

（８）法人後見事業の実施

■事業説明：ライフサポート事業及び日常生活自立支援事業の利用者でライフサポート事業及び日常生活自立支援事業では対応が困難な人の判断能力を補うため、本会が成年後見人、保佐人、補助人となることにより、成年被後見人、被保佐人、被補助人の財産管理及び身上監護を行い、その権利を擁護することを目的とする。

①受任実績：3件（補助2件、保佐1件）

②運営委員会の開催

■審議委員：弁護士、司法書士、宗像市（福祉政策課保健福祉政策係長、福祉政策課障害者福祉係長、高齢者支援課地域包括支援センター職員）、精神科医師、他市社会福祉協議会（社会福祉士） 計7人

■開催日程と主な内容

項目	実施時期	主な内容
令和5年度第1回委員会	6月29日	内 容：①新規申込者の審議について 1件
令和5年度第2回委員会	8月31日	内 容：①新規申込者の審議について 1件 受任ケースの現況報告 ②事務連絡 ▼受任ケース（高齢3件）

（９）心配ごと相談所設置事業

■事業説明：心配ごと相談所への相談内容は、複雑化・多様化している。そのため、他の相談機関とも連携を図っている。主に、法律、財産、離婚、家族関係等の相談が多くを占めている。相談員は3人で、相談は個別（個室）面接方式で行っている。

■相談日：①毎月第1・2・4木曜日・場所：市役所1階

②偶数月第3木曜・場所：日の里コミセン

③奇数月第3木曜・場所：自由ヶ丘コミセン

■相談員：3人 ■相談件数合計：499件 ■利用者数：119人

■相談件数及び相談内容

内 容		人 権 法 律	財 産	家 族 関 係	離 婚 結 婚	生 計 年 金	住 宅	事 故	健 康 医 療	職 業 生 業	苦 情	福 祉 関 係	そ の 他	合 計
件 数	令和3年度	35	39	57	9	61	21	3	32	13	1	31	12	314
	令和4年度	40	39	43	11	56	26	6	17	12	2	27	8	287
	令和5年度	78	70	73	20	61	40	16	33	15	7	61	25	499

(10) 災害ボランティア活動における協力・連携

- 事業説明：宗像市と宗像市社会福祉協議会との間で締結している「災害時におけるボランティア活動に関する協定書」に基づき、災害が発生し、宗像市からの災害ボランティアセンターの設置要請を受け、そのボランティア活動に関わる一連の運営・管理を行う。また、設置・運営に向けた必要な取り組みを実施する。
『宗像市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル』を策定（令和2年度）
また、福岡県社協からの要請等により、他自治体災害被災地に職員を派遣する。
- 久留米市災害ボランティアセンターへの職員派遣
8月：5人派遣（延べ16日）
- 3市社協（宗像・福津・古賀市）合同による災害ボランティアセンター設置・運営訓練
日時：9月2日（土）9：30～17：00
会場：メイトム宗像（多目的ホール、健診室ほか）
参加職員：16人（古賀市社協、福津市社協、県社協、各自治体ほか：全体67人）
- 災害ボランティアセンター資機材倉庫の設置
福岡県共同募金会からの配分金（300万円）を活用し、3市社協合同で資機材倉庫の設置（メイトム宗像・おもちゃ図書館横：2月末完成）及び災害支援活動に使用する資機材を購入した。

(11) 宗像市遺族連合会活動への助成

- 事業説明：宗像市遺族連合会へ活動費補助金の交付を行っている。
- 宗像市遺族会連合会へ活動費補助金の交付。

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	1,099,000円	1,099,000円	1,099,000円

(12) 社協出前講座の実施

- 事業説明：地域における住民主体の地域課題解決・包括的な支援体制の第一の取り組みとして、自治会など小地域を対象に出前講座を平成29年4月から開始した。
出前講座の内容は、地域課題や福祉課題解決に向けた「見守りネットワーク入門」「福祉座談会」など12項目。

- 実施回数：実施状況

講座No.	講座内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
No.3	「福社会ってなに？」	生活支援 体制整備 事業の取 組みに 包含	生活支援 体制整備 事業の取 組みに 包含	生活支援 体制整備 事業の取 組みに 包含
No.4	地域の助け合い・支え合いを考える ～見守りネットワーク入門～			
No.5	地域の助け合い・支え合いを考える ～ご近所支え合いマップづくり入門～			
No.6	地域の助け合い・支え合いを考える ～福祉座談会～			
No.7	暮らしの安心をサポートします ～地域福祉権利擁護事業～			

4 広報公聴活動の推進

(1) 社協だよりの発行

- 事業説明：市広報紙「タウンプレスむなかた」を利用して、年6回（偶数月）発行。
市民に向けて、地域福祉活動及び本会活動等についての情報提供を行なっている。

実施時期	記事の内容
■第205号 4月1日発行 (2頁)	シリーズ⑥ライフサポート事業紹介、災害ボランティアセンター設置訓練、認知症に関するお知らせ（認知症サポーター養成講座募集・オレンジカフェ紹介・本人ミーティング開催・令和4年度のふり返り）、ボランティアセンター通信（令和5年度手話講習会受講者募集）、地域支え合い推進員紹介、他
■第206号 6月1日発行 (2頁)	令和5年度社会福祉協議会事業計画・予算紹介、シリーズ⑦自由ヶ丘南1区会公民館を活用した居場所づくり紹介、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告・参加者募集）、在宅介護者1日リフレッシュセミナー参加者募集、他
■第207号 8月1日発行 (2頁)	シリーズ⑧おおしまDEいきいき元気教室開催、令和4年度社会福祉協議会決算報告、会長就任あいさつ、認知症支援に関するお知らせ（本人交流会開催日のお知らせ）、宗像市ボランティアセンターInstagramはじめました、おもちゃ図書館休館日お知らせ、他
■第208号 10月1日発行 (2頁)	赤い羽根共同募金協力のお願い（たすけあいの心、前年度実績額、使いみち、目標額、目安額、支えられている募金、災害等準備金積立）、共同募金配分団体紹介（日の里東小学校）、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告・参加者募集）、在宅介護者1泊リフレッシュセミナー参加者募集、ひとり親家庭 日帰り旅行参加者募集、他
■第209号 12月1日発行 (2頁)	福祉教育読本「ともに生きる」感想文と福祉絵画コンクール、歳末たすけあい募金協力依頼、シリーズ⑨河東地区山田本村いきいきサロン紹介、地域福祉文庫講演会案内、おもちゃ図書館休館日お知らせ、他
■第210号 2月1日発行 (3頁)	歳末たすけあい募金寄付謝礼（岡垣第一幼稚園、寄付者名簿）、シリーズ⑩東郷地区協議体「やよい東郷」開催、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告・参加者募集）、赤い羽根共同募金謝礼（大島学園街頭募金隊・河東地区）、寄付御礼（くりえいと宗像・吉田益美社会福祉協議会前会長）、他

(2) 本会ホームページの管理・運営

①ホームページの管理・運営

- 事業説明：インターネットの活用による市内外の人へ随時情報を提供するとともに、「社協だよりの」、「ボランティアセンターだよりの」、本会の各種計画、地区福祉会の地域福祉活動計画等のデータベース化を行っている。
- 実施内容：本会ホームページの適切な管理・運営に努めた。「バナー」広告に関しては、随時募集を行った。令和3年度には、ホームページのリニューアル作業を実施し、スマートフォンでの閲覧の利便性を図った。

アクセス ログイン数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	36,182件	39,223件	43,665件

5 高齢者福祉事業の推進

(1) 宗像市在宅介護者支援事業（市委託事業）

- 事業説明：在宅で家族の介護をしている介護者を対象に、より良い介護が継続できるよう介護に関する研修とリフレッシュ事業（介護者交流会）を実施した。

実施事業	実施時期	主な活動内容
在宅介護者応援セミナー	2月13日(火)	テーマ:在宅医療のすすめ 講師: コールメディカルクリニック福岡 理事長 岩野 歩 医師 会場: メイトム宗像 202 会議室 人数: 45 人
一泊リフレッシュセミナー	11月16日(木) ～17日(金)	行先: 熊本県玉名市・山鹿方面 人数: 8 人 (男性 2・女性 6)
一日リフレッシュセミナー	7月5日(水)	行先: 福岡県田川市等 人数: 21 人(随行者含む)

(2) 在宅介護家族の会ひまわり活動助成支援

■事業説明: 在宅で家族の介護をしている介護者で組織している「ひまわりの会」への活動支援及び資金支援などを行った。

■宗像市在宅介護家族の会“ひまわり”への活動費補助金の交付

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	155,000 円	155,000 円	155,000 円

(3) 宗像市シニアクラブ連合会と連携・支援(再掲)

※3 “ともにいきるまち宗像” 推進事業の充実 (6) 宗像市シニアクラブ連合会と連携・支援を参照 (P13)。

(4) 鍼灸治療費補助事業

■事業説明: 高齢者の健康維持のため、社会保険加入者を対象に鍼灸治療費の一部を補助。平成 20 年度から、後期高齢者医療被保険者についても市の委託事業として本会で一部補助を開始した。

■鍼・灸治療費の助成内容: 一回につき 500 円、月 5 回まで

鍼灸延べ 利用件数	保険種別	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	社会保険被保険者	1,223 件	1,447 件	1,202 件
	後期高齢者医療被保険者	3,031 件	2,915 件	2,569 件

(5) 認知症サポーター養成講座事業及び認知症サポーター活動支援事業

1. 認知症サポーター養成事業

① 認知症サポーター養成講座

■事業説明: 平成 25 年度から宗像市より受託しているこの講座は、誰もが認知症について正しい知識を持ち、認知症の人やその家族の「尊厳ある暮らし」を守り、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して実施している。現在、市内には 1.3 万人以上のサポーターが誕生している。

■実施方法: 本会職員が講師役「キャラバン・メイト」養成講座を受講し、学んだ知識や体験などを踏まえ、地域、学校、職場などで養成講座を開催している。

■事業実績

項目/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数	10 回	19 回	11 回
受講者数	826 人	1,130 人	478 人

② 認知症サポーターステップアップ研修会

■事業説明: この講座は、「認知症サポーター養成講座」を修了した人を主として、培った知識を深め、認知症の方やその家族を認知症サポーターや地域住民等が地域全体で支える仕組み作り(チームオレンジ)を推進するための講座である。

■事業実績

項目／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数	1回	1回	1回
受講者数	22人	36人	41人

開催日	場所	内容
3月14日(木)	メイトム宗像 202会議室	(テーマ)～認知症について実践的な内容を学ぼう～ 第1部 宗像市の最近の取り組みとチームオレンジ活動について 第2部 ゲストの丹野さんを迎えて意見交換 (グループワーク) (講師) おれんじドア 代表 丹野 智文 氏

③キャラバン・メイト養成

■事業説明：「キャラバン・メイト」とは、地域で暮らす認知症の人やその家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を養成する「認知症サポーター養成講座」の講師役である。本会職員が受講し、総数5人となった。

日程	場所	研修名	受講者数
8月22日(火)	クローバープラザ	福岡県キャラバン・メイト養成研修	2人

2. 認知症サポーター活動支援事業

①認知症地域支援推進員活動

■事業説明：認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、市町村ごとに、地域包括支援センター、市町村等に配置されている。医療機関・介護サービス事業所・地域の支援機関間の連携を図るための支援及び認知症の人やその家族を支援する相談業務等を担っている。

■研修関係

	日程	場所	研修名
1	9月14日(木)・15日(金)	福岡市	認知症地域支援推進員現任者研修
2	9月8日(金)	飯塚市	チームオレンジ勉強会
3	令和6年1月22日(火)	福岡市	チームオレンジ研修
4	3月10日(土)・11日(日)	北九州市	認知症カフェモデレーター研修

■会議

(1) 認知症地域支援推進員会議

	日程	場所
1	4月17日(月)	宗像市役所 202会議室
2	5月15日(月)	宗像市役所 202会議室
3	6月19日(月)	宗像市役所 202会議室
4	7月24日(月)	宗像市役所 103B会議室
5	8月31日(木)	メイトム多目的ホール
6	10月16日(月)	宗像市役所 304会議室
7	11月20日(月)	宗像市役所 202会議室
8	12月18日(月)	宗像市役所 202会議室
9	1月15日(月)	宗像市役所 103B会議室
10	2月14日(水)	宗像市役所 303会議室
11	3月18日(月)	宗像市役所 101会議室

(2) 第2層地域支え合い推進員担当者会議

	日程	場所
1	4月3日(月)	メイトム宗像 203 会議室
2	4月19日(水)	メイトム宗像 203 会議室
3	5月8日(月)	メイトム宗像 203 会議室
4	5月25日(木)	メイトム宗像 203 会議室
5	6月5日(月)	メイトム宗像 203 会議室
6	6月21日(金)	メイトム宗像 203 会議室
7	7月3日(月)	メイトム宗像 203 会議室
8	7月19日(水)	メイトム宗像 203 会議室
9	8月7日(月)	メイトム宗像 203 会議室
10	9月4日(月)	メイトム宗像 203 会議室
11	10月4日(水)	メイトム宗像 203 会議室
12	10月18日(水)	メイトム宗像 203 会議室
13	11月6日(月)	メイトム宗像 203 会議室
14	12月4日(月)	メイトム宗像 203 会議室
15	12月20日(水)	メイトム宗像 203 会議室
16	1月9日(火)	メイトム宗像 203 会議室
17	1月26日(金)	メイトム宗像 203 会議室
18	2月5日(月)	メイトム宗像 203 会議室
19	2月21日(水)	メイトム宗像 203 会議室
20	3月4日(月)	メイトム宗像 203 会議室
21	3月19日(火)	メイトム宗像 203 会議室

■その他

	日程	場所	内容
1	10月16日(月)	メイトム宗像 201 会議室	キャラバン・メイトプレゼンテーション
2	3月26日(火)	メイトム宗像 結工房	オレンジカフェ事業情報交換会

②-1 オレンジ(認知症)カフェ

■事業説明：オレンジ(認知症)カフェとは、認知症の人やその家族、地域住民など誰もが集うことのできる場所である。認知症になっても認知症の人や家族が安心して地域で生活できるように、人や地域との繋がりを結ぶことや認知症について正しい知識の普及啓発を目的に開催している。この活動を推進するために、宗像市内においてカフェを実施・運営する団体と個人に対し、その事業費の一部を助成している。

■実施方法：認知症に関する講話、レクリエーション、医療・介護・福祉分野の専門職による相談コーナーなどを設けている。

■相談協力団体：宗像市、宗像市内の地域包括支援センター

■開催回数及び参加者数：8回開催 延べ324人

	日程	場所	参加数	実施団体	内容
1	5月24日(水) 13:00~15:00	自由ヶ丘第3区 公民館	37人	自由ヶ丘第3区会	・認知症について(講話) ・マジックショー ・談笑 ・相談コーナー
2	5月28日(日) 10:00~12:00	城西ヶ丘公民館	57人	城西ヶ丘見守りネット ワークむすび愛	・音楽療法 ・ハンドマッサージ ・談笑 ・相談コーナー

3	9月4日(月) 9:30~12:00	自由ヶ丘第1区会 公民館	21人	自由ヶ丘第1区会 (1・6・7丁目)	・認知症について(講話) ・相撲甚句と川柳 ・談笑 ・相談コーナー
4	9月20日(水) 10:00~12:00	朝野公民館	24人	花いちもんめ	・認知症について(講話) ・指体操、バルーンアート ・オカリナ演奏 ・談笑 ・相談コーナー
5	9月21日(木) 13:00~15:00	自由ヶ丘コミセン	35人	自由ヶ丘第2区会	・認知症について(講話) ・ケアパス ・談笑 ・相談コーナー
6	11月26日(日) 10:00~12:00	城西ヶ丘公民館	71人	城西ヶ丘見守りネット ワークむすび愛	・バンドコンサート ・ハンドマッサージ ・談笑 ・相談コーナー
7	2月28日(水) 13:00~15:00	自由ヶ丘第3区公 民館	40人	自由ヶ丘第3区会	・認知症について(講話) ・特殊詐欺について ・ネイルコーナー ・談笑 ・相談コーナー
8	2月29日(木) 13:00~15:00	自由ヶ丘Fコープ 2階会議室	39人	自由ヶ丘1区福祉会 (西町)	・認知症について(講話) ・消費者被害対策について ・ご当地体操 ・談笑 ・相談コーナー

②-2 オレンジカフェ情報交換会

■事業説明：オレンジカフェの実施運営主体は、市内で活動しているボランティア団体や事業所である。カフェ事業に取り組む中で、実施運営団体、認知症の人とその家族、市、本会が一同に会し、疑問点・改善点など様々な課題や気づき、意見交換、現状の把握など、情報と意見交換等を行うことを目的に、年1回開催している。

・オレンジカフェ情報交換会

日程	場所	参加者及び団体	内容
3月26日(火) 10:00~12:00	メイトム 宗像内 結工房	認知症のある人とその 家族・地域ボランティ ア及び 高齢者分野関連団体・ 宗像市・宗像市内地 域包括 支援センター (3団体、10人)	・オリエンテーション ・実績報告 オレンジカフェについて 認知症地域支援推進員 松永 ・情報交換タイム

③「本人ミーティング」に関する取り組み

■事業説明：認知症本人が集まり、互いの体験や希望、必要としていることを語り合い、これからも希望を持って暮らせるよう交流する場である「本人ミーティング」の輪が全国で広がっている。本市でも今年度より、「本人ミーティング」を本人、家族や地域の人とともに月4回定例開催している。

・「それでいい」

	日程	場所	参加者数	内容
1	4月21日	メイトム宗像健診室、多目的ホール	11人	座談会、歌、音楽療法
2	5月19日	メイトム宗像健診室、多目的ホール	8人	座談会
3	6月16日	メイトム宗像結工房	9人	座談会、
4	7月21日	メイトム宗像結工房	7人	座談会
5	8月18日	メイトム宗像結工房	9人	座談会
6	9月22日	メイトム宗像結工房	9人	座談会
7	10月20日	メイトム宗像結工房	10人	座談会
8	11月17日	メイトム宗像結工房	7人	座談会
9	12月15日	メイトム宗像結工房	7人	座談会
10	R6年1月19日	メイトム宗像結工房	9人	座談会
11	2月16日	メイトム宗像結工房	6人	座談会
12	3月15日	メイトム宗像結工房	10人	座談会、認知症について（講話）

・「花さく会」

	日程	場所	参加者数	内容
1	4月13日	日の里包括支援センター「ぼんて」	18人	談笑、囲碁、歌など
2	5月11日	日の里包括支援センター「ぼんて」	12人	談笑、囲碁、歌など
3	6月8日	日の里包括支援センター「ぼんて」	7人	談笑、囲碁、歌など
4	7月13日	日の里包括支援センター「ぼんて」	7人	談笑、囲碁、歌など
5	9月28日	日の里包括支援センター「ぼんて」	7人	談笑、囲碁、歌など
6	10月12日	日の里包括支援センター「ぼんて」	11人	談笑、囲碁、歌など
7	11月9日	日の里包括支援センター「ぼんて」	10人	談笑、囲碁、歌など
8	12月14日	日の里包括支援センター「ぼんて」	13人	談笑、囲碁、歌など
9	令和6年1月11日	日の里包括支援センター「ぼんて」	14人	談笑、囲碁、歌など
10	2月8日	日の里包括支援センター「ぼんて」	10人	談笑、囲碁、歌など
11	3月7日	日の里包括支援センター「ぼんて」	14人	談笑、囲碁、歌など

・囲碁の会

	日程	場所	参加者数	内容
1	6月20日	日の里包括支援センター「ぼんて」	9人	囲碁
2	7月20日	日の里包括支援センター「ぼんて」	2人	囲碁
3	8月17日	日の里包括支援センター「ぼんて」	2人	囲碁
4	9月6日	日の里包括支援センター「ぼんて」	5人	囲碁
5	10月4日	日の里包括支援センター「ぼんて」	5人	囲碁
6	11月1日	日の里包括支援センター「ぼんて」	5人	囲碁
7	12月6日	日の里包括支援センター「ぼんて」	3人	囲碁
8	令和6年1月24日	日の里包括支援センター「ぼんて」	3人	囲碁
9	2月7日	日の里包括支援センター「ぼんて」	4人	囲碁
10	3月7日	日の里包括支援センター「ぼんて」	5人	囲碁

・まっちゃんの部屋

	日程	場所	参加者数	内容
1	4月11日	赤間西コミセン2階 大会議室	1人	座談会
2	5月16日	赤間西コミセン2階 大会議室	2人	座談会
3	6月23日	赤間西コミセン2階 小会議室 A	4人	座談会、
4	8月4日	宗寿園 大ホール	4人	カラオケ、ひよっとこ踊り上演
5	9月7日	赤間西コミセン2階 小会議室 A	6人	座談会
6	10月3日	赤間西コミセン2階 大会議室	7人	座談会
7	11月7日	赤間西コミセン2階 大会議室	3人	座談会
8	12月5日	赤間西コミセン2階 大会議室	5人	座談会
9	令和6年1月9日	赤間西コミセン2階 大会議室	6人	座談会
10	2月6日	赤間西コミセン2階カルチャールーム	5人	座談会
11	3月5日	赤間西コミセン2階カルチャールーム	6人	座談会、カラオケ

④RUN 伴（＋）2021 遠賀・宗像・古賀・新宮エリア実行委員会活動

■事業説明：日本全国のまちが、認知症になっても安心して暮らしていくことができる地域になることを目指して、認知症の人とともにタスキをつなぐ列島リレー「RUN 伴」が平成 23 年に始まり、宗像市は平成 27 年から参加している。しかし、昨年引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、国内各エリアで RUN 伴および RUN 伴＋開催を中止した。

⑤チームオレンジに関する調査、研究

■事業説明：今年度、認知症サポーター養成講座やステップアップ研修会を受講した人のうち「認知症の人と共に支え合う地域づくりに関心がある。」という 11 人を中心に「チームオレンジ」を立ち上げた。来年度以降も、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らすための活動に取り組んでいく予定である。

■会議・研修

	日程	場所	内容
1	7 月 6 日 (木)	メイトム宗像 203 会議室	R5 年度チームオレンジ初回ミーティング (顔合わせ・チームオレンジについて)
2	10 月 5 日 (木)	メイトム宗像 203 会議室	R5 年度チームオレンジ第 2 回ミーティング (新しい認知症観について)
3	12 月 7 日 (木)	メイトム宗像 101 会議室	R5 年度チームオレンジ第 3 回ミーティング (オレンジカフェについて)
4	令和 6 年 1 月 22 日 (月)	サンリブ宗像タリーズコーヒー	R5 年度チームオレンジ第 4 回ミーティング (オレンジカフェ開催準備)

(6) 配食サービス事業

■事業説明：主に玄海地区で、高齢者への「ふれあい型配食サービス事業」を実施しているボランティア団体へ助成を行った。

助成額	団体名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	浜ゆうの会	138,000 円	138,000 円	138,000 円

6 障がい児者福祉事業の推進

(1) 障がい児者福祉団体活動への支援

①宗像市あゆみの会活動への助成・支援

■内 容：宗像市あゆみの会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	225,000 円	225,000 円	225,000 円

②宗像市身体障害者福祉協会活動への助成・支援

■内 容：宗像市身体障害者福祉協会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	340,000 円	340,000 円	340,000 円

③あじさいの会活動への助成・支援

■内 容：障がいのある人とボランティアが協働で社会参加活動を行う「あじさいの会」へ、活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	80,000 円	80,000 円	80,000 円

④宗像コスモス会への助成

■内 容：精神に障がいのある人とその家族で構成する福祉団体コスモスの会へ、活動費補助金を交付。

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	88,000円	88,000円	88,000円

⑤パソコンクラブへの支援

■内 容：障がいのある人で構成される社会参加型のパソコンクラブ。本会の福祉教育読本とともに生きる感想文集のデジタル化（パソコン入力）を毎年行なっている。

委託金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	30,000円	30,000円	30,000円

(2) 障がい者等への情報配信事業

①手話講習会事業

■事業説明：コミュニケーション方法のひとつ「手話」を学び、聴覚障がいや難聴の人の理解促進を図る事業。

■会 場：●火曜・土曜コース…メイトム宗像 ●金曜コース…玄海地区コミセン

■講習会日時：●火曜コース…19時から21時 ●金曜コース…13時30分から15時30分
●土曜コース…13時から15時

■運営委託

①手話サークル「シュワッチ」火・土曜コース ②玄海手話サークル「ゆび」金曜コース

活動実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	回数	参加数	回数	参加数	回数	参加数
火曜	16回	129人	26回	887人	34回	908人
金曜	24回	209人	37回	271人	35回	331人
土曜	18回	507人	25回	355人	36回	1572人
合計	58回	845人	88回	1513人	105回	2811人

※令和5年度は火曜コースを2回悪天候のため休講にした。

②声の広報配布事業

■事業説明：視覚に障害のある市民へ市や地域の情報を届けるため、毎月1回宗像市広報「むなかたタウンプレス」等を音訳、デジタル録音したCDを配布する事業。

■委託団体：日の里テープの会・ボランティアグループグリーンボイス・森林都市うぐいす

利用者数 (視覚障がい者)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	10人	11人	11人

③要約筆記ボランティア事業

■事業説明：聴覚・言語・音声機能などの障がいのために、意思疎通を図ることに支障のある人に対する要約筆記活動を軸にしたボランティア活動。本会が実施している福祉ボランティア養成講座「要約筆記ボランティアコース」の受講者を中心に結成された「暖歩（ダンボ）」が活動。

■活動内容

実施日	場 所	主な活動内容
適宜	メイトム宗像	学習会、講演会等での要約筆記協力 ●パソコン要約筆記学習 ●手書きによる要約筆記学習 ●ノートテイク活動

(3) おもちゃ図書館の運営

■事業説明：障がいのある人や子ども、高齢の人が「布のおもちゃ」などの療育遊具等で遊びながら療育を行うことができる施設を開設し、おもちゃの貸し出しも実施している。館の運営、布おもちゃの作成はボランティアに委託している。おもちゃの作成、貸し出し運営以外にも広報紙「たんぼぼ通信」を発行、訪問型のおもちゃ図書館「出張おもちゃ図書館」を実施した。

■開館場所：メイトム宗像別館「居宅介護支援センター」1F

■開館日時：毎週木曜日 14：00～17：00・第2・4土曜日 14：00～16：00

■運営委託：宗像おもちゃライブラリー

	項目／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
活動実績	制作・修理点数	51点	75点	73点
	貸出し点数	369点	567点	567点
	延べ利用入館者数	213人	278人	377人
	出張・臨時おもちゃ図書館	2回	3回	4回

■出張・臨時おもちゃ図書館：おもちゃ図書館に来所することが困難な団体などに対し、出張訪問などで対応する。

日程	訪問先	参加者数
8月29日	古賀特別支援学校	130人
11月22日	東郷小学校	89人
2月19日	赤間小学校	136人
3月8日	赤間西小学校	51人
合計		4回 406人

(4) 車イス移送車貸出事業

■事業説明：高齢又は障がいのある車イスの利用者が、地域の行事への社会参加及び通院など、自由に外出できるよう車イス移送車を貸し出す事業。

	項目／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
活動実績	利用登録数	個人	9人	10人	11人
		団体	1団体	2団体	1団体
		スロープカー	24回	46回	45回

7 低所得者福祉事業の推進

(1) 生活福祉資金貸付事業（福岡県社会福祉協議会委託事業）の推進

①生活福祉資金貸付・償還事務の適切な実施

■事業説明：生活福祉資金は、低所得者の経済的自立や失業による一時的な困窮など、安定した生活を営めるように資金を貸付する制度。資金の種類としては、高校・大学などへの進学や卒業を支援する「教育支援資金」、生活保護受給や初任給までのつなぎとしての「緊急小口資金」、失業者への総合的な支援に活用できる「総合支援資金」などがある。また、令和2年3月下旬より緊急小口資金と総合支援資金の一部貸付要件が緩和され、新型コロナウイルスの影響で収入減となった世帯への特例貸付は約2年半に渡り実施され、令和4年9月末で終了した。

	項目／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
貸付実績	教育支援資金	21件	6件	17件

	福祉費	2件	0件	6件
	緊急小口資金	326件	106件	24件
	臨時特例つなぎ資金	1件	0件	1件
	総合支援資金	468件	70件	1件
	合計	818件	182件	49件

②「生活困窮者支援制度」による支援事業との連携

■事業説明：支援調整会議（事務局：宗像市生活支援課）に出席し、「生活困窮者支援制度」に関わる個別ケースについての情報共有を行うことで、社会福祉協議会が行っている「生活福祉資金貸付事業」との連携を図った。

（２）歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分

①歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分

■事業説明：歳末たすけあい募金の実施に関して、宗像市民生委員児童委員協議会と協働して取り組むもの。

■実施内容：新型コロナウイルス感染予防のため2年間活動を中止したが、令和4年度より各商店や企業などへ募金の依頼を再開し、従来の個別訪問方式から、郵送振込方式へ見直した。また、民生委員児童委員と協働し、JR各駅や道の駅むなかた、サンリブなどで街頭募金を実施した。集まった募金は、支援を必要とする世帯、子育て支援団体、本会の教育支援資金の貸付を受けた高校生が属する世帯（生活保護世帯除く）に対して募金の配分を行った。

■実施期間：11月1日～12月31日

活動実績	項目／年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度
		募金実績額		0円	857,739円
配分金額 (一部、翌年度配分含む)	支援を必要とする世帯		0円	190,000円	275,000円
	※子育て支援団体		0円	660,000円	490,000円
	共同募金へ繰入		0円	7,739円	696円

※子育て支援団体：子育てサークル、子育て・母子福祉支援団体。

8 子育て子育て・母子寡婦福祉支援事業の推進

（１）子育て・子育て支援事業の充実

①こねっと活動助成支援

■事業内容：子育て支援事業に取り組んでいる「NPO法人むなかた子育てネットワークこねっと」への活動費補助金を交付。

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	40,000円	40,000円	40,000円

②子育て支援団体等への活動費助成支援

■事業説明：歳末たすけあい募金の中から、助成を希望する子育て支援団体等へ活動資金の助成を行う。

※（）内の数字は助成団体数

配分金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	0円	660,000円 (7)	490,000円 (7)

（２）地域福祉文庫連絡協議会活動助成支援

■事業説明：地域の子どもたちに本の楽しさ、面白さを知ってもらうために、地域福祉文庫の設置を行った。現在では、4文庫が活動を行っている。平成18年に、5つの文庫

で構成する連絡協議会を設立した。

- 活動内容：各文庫間の情報交換、絵本の素晴らしさや絵本を通じた親子のふれあいの大切さなどを伝えるための活動を支援。また、各文庫活動の質の向上を図るため、会員研修会の実施を支援した。

実施事業	実施時期	主な活動内容
講演会	12月13日	テーマ：『絵本のたのしみ』 講師 国立青少年教育振興機構 絵本専門士 吉岡林子さん 参加者：20人

- 助成内容：宗像市地域福祉文庫連絡協議会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	145,000円	145,000円	245,000円

(3) 宗像市母子寡婦福祉会活動助成支援

- 事業説明：母子家庭の母親の就労支援及び子育て支援、福祉の向上を図るため、宗像市母子寡婦福祉会の活動支援と協力を実施。

- 活動内容：宗像市母子寡婦福祉会へ活動補助金の交付、事業の活動支援等を行った。

- 助成内容：宗像市母子寡婦福祉会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	270,000円	270,000円	270,000円

9 福祉教育の推進

(1) 福祉教育推進校（園）指定事業の実施

①福祉教育推進校（園）の指定

- 事業説明：平成18年度から福祉教育推進計画に基づいた「福祉教育推進事業実施要綱」により、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を対象に「推進校」を指定し、子どもへの福祉教育を実施した。

指定校（園）数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	<ul style="list-style-type: none"> ■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2園 ②保育園（推薦園）2園 ③小学校15校 ④中学校7校 ⑤高校2校 【計：28校・園】 	<ul style="list-style-type: none"> ■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2園 ②保育園（推薦園）2園 ③小学校15校 ④中学校7校 ⑤高校1校 【計：27校・園】 	<ul style="list-style-type: none"> ■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2園 ②保育園（推薦園）2園 ③小学校15校 ④中学校7校 ⑤高校2校 【計：28校・園】

②福祉教育推進校（園）への福祉体験学習等の支援

- 事業説明：福祉教育推進校（園）が実施する福祉体験学習等の実施を支援した。

- 実施校数：小学校13校、中学校1校

対象者数	学校/学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
	小学校	0人	0人	961人	856人	356人	156人	2,329人
中学校	106人	98人	0人				204人	
高校	0人	0人	0人				0人	
						令和5年度 合計	2,533人	
						令和4年度 合計	2,486人	
						令和3年度 合計	2,234人	

■主な支援内容

学校名	対象者	主な活動内容
吉武小学校	3年生 (33人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：9月15日、22日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：手話体験、聴覚障がい者との交流
	5年生 (28人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：6月9日、15日 ■主な協力者：車いす利用者 ■主な内容：車いす体験、車いす利用者との交流会
赤間小学校	3年生 (151人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：6月23日、11月11日（子ども大学） ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：手話体験、聴覚障がい者との交流
	4年生 (129人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：7月6日、7日、9月7日、11日、11月11日（子ども大学） ■主な協力者：ガイドボランティア「アイフレンド」、視覚障がい者 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験、視覚障がい者との交流
赤間西小学校	3年生 (93人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：1月29日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：手話体験、聴覚障がい者との交流
	4年生 (67人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：11月15日、20日、21日 ■主な協力者：ガイドボランティア「アイフレンド」、視覚障がい者 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験、視覚障がい者との交流
自由ヶ丘小学校	3年生 (110人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月2日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：リモートによる聴覚障害者との交流、質疑応答、手話体験
	4年生 (102人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：1月17日、24日、31日 ■主な協力者：ガイドボランティア「シュワッチ」 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験、点字体験、視覚障がい者との交流
	5年生 (78人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月14日 ■主な協力者：自由ヶ丘地区福祉会役員と保護者 ■主な内容：車いす体験学習
自由ヶ丘南小学校	3年生 (38人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月7日 ■主な協力者：手話サークルシュワッチ ■主な内容：リモートによる聴覚障害者との交流、質疑応答、手話体験
	4年生 (32人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月1日、13日、19日 ■主な協力者：自由ヶ丘地区福祉会と役員と保護者 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験、点字体験、視覚障がい者との交流
東郷小学校	3年生 (101人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：1月31日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：リモートによる聴覚障害者との交流、質疑応答、手話体験
	4年生 (110人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：9月19日、25日、10月3日、11月16日 ■主な協力者：視覚障がい者、点訳ボランティア「てんとうむし」、ガイドボランティア「アイフレンド」 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験（児童及び保護者）点訳体験、視覚障がい者との交流会、学習発表会
南郷小学校	3年生 (49人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月20日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：DVDを活用した導入学習、リモートによる聴覚障害者との交流、質疑応答

	4年生 (37人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：9月22日、26日、10月5日 ■主な協力者：視覚障がい者、点訳ボランティア「てんとうむし」、ガイドボランティア「アイフレンド」 ■主な内容：アイマスク・ガイド体験(児童及び保護者)、点訳体験、視覚障がい者との交流
	6年生 (49人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：10月19日、27日、31日 ■主な協力者：保護者、中央学園サポート隊等 ■主な内容：宗像市、南郷地区の高齢者の現況、高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座
日の里西小学校	3年生 (52人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月6日 ■主な協力者：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：リモートによる聴覚障害者との交流、質疑応答、手話体験
	4年生 (57人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：1月16日、23日、2月14日 ■主な協力者：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容：視覚障がい者との交流会・アイマスク体験(児童・保護者)屋外にてバス乗降体験、点字体験
	5年生 (58人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：5月17日、23日、30日、6月14日 ■主な協力者：保護者、日の里地区シニアクラブ(1.8.9丁目) ■主な内容：宗像市・日の里地区の現況、高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座、地域の方(シニアクラブ)へインタビュー活動
	6年生 (52人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：11月2日 ■主な協力者：日の里地区福祉会 ■主な内容：地域の福祉活動について知ろう/日の里地区福祉会の活動・町内会福祉会の活動紹介(7丁目・AP1区)
	3年生 (39人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月6日 ■主な協力者：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：リモートによる聴覚障害者との交流・質疑応答・手話体験
日の里東小学校	3年生 (39人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月21日 ■主な協力者：保護者・教職員 ■主な内容：車いす体験(児童・保護者/教師)
	4年生 (48人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：1月22日、30日、2月15日 ■主な協力者：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容：視覚障がい者との交流会・アイマスク体験(児童・保護者)屋外にてバス乗降体験、点字体験
	5年生 (50人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：5月18日、26日、6月2日、15日 ■主な協力者：保護者、日の里地区シニアクラブ(2.3.4.5.6丁目) ■主な内容：宗像市・日の里地区の現況、高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座、地域の方(シニアクラブ)へインタビュー活動
	6年生 (55人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：11月2日 ■主な協力者：日の里地区福祉会 ■主な内容：地域の福祉活動について知ろう/日の里地区福祉会の活動・町内会福祉会の活動紹介(2丁目・5丁目)
	3年生 (115人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：3月4日 ■主な協力者：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容：DVDを活用した導入学習・リモートによる聴覚障害者との交流・質疑応答・手話体験
河東小学校	4年生 (139人)	<ul style="list-style-type: none"> ■実施日：2月5日、6日、19日、22日、3月8日 ■主な協力者：視覚障がい者、点訳ボランティア「てんとうむし」、ガイドボランティア「アイフレンド」

		<p>■主な内容：アイマスク・ガイド体験（DVD活用/学校対応）・点訳体験・視覚障がい者との交流会</p>
	5年生 (142人)	<p>■実施日：7月3日、4日</p> <p>■主な内容：車椅子体験学習（車椅子の理解、支援の仕方の学習）</p>
河東西学校	3年生 (112人)	<p>■実施日：2月21日</p> <p>■主な協力者：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」</p> <p>■主な内容：DVDを活用した導入学習・リモートによる聴覚障害者との交流・質疑応答</p>
	4年生 (125人)	<p>■実施日：2月16日、26日、3月5日</p> <p>■主な協力者：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」</p> <p>■主な内容：アイマスク・ガイド体験（DVD活用/学校対応）、点訳体験（DVD活用/学校対応）、視覚障がい者との交流会</p>
玄海小学校	3年生 (12人)	<p>■実施日：11月11日、28日</p> <p>■主な協力者：ガイドボランティア「アイフレンド」、視覚障がい者</p> <p>■主な内容：アイマスク・ガイド体験、視覚障がい者との交流会</p>
	4年生 (10人)	
玄海東小学校	3年生 (17人)	<p>■実施日：2月16日</p> <p>■主な協力者：玄海手話サークル ゆび</p> <p>■主な内容：聴覚障害者との交流</p>
日の里中学校	1年生 (106人)	<p>■実施日：10月2日、18日、26日、11月22日</p> <p>■主な協力者：日の里地区シニアクラブ、日の里地区民生委員児童委員協議会、日の里地区福祉会、日の里地域包括支援センター</p> <p>■主な内容：地域の高齢者の活動と現状、高齢者を支える社会の仕組み“介護保険制度”と“地域支え合い活動”、認知症についての理解(寸劇・ロールプレイ)、ミニ協議体</p>
	2年生 (98人)	<p>■実施日：2月28日</p> <p>■主な協力者：日の里地区シニアクラブ・日の里地区福祉会</p> <p>■主な内容：スマホ教室～LINEの基本的な使い方～ 各公民館で高齢者と中学2年生がスマホを通じた交流</p>

③福祉教育推進校連絡会の実施

■事業説明：「福祉教育推進事業実施要綱」により、指定を受けた保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校で構成する福祉教育推進校（園）連絡会を2回開催している。

実施事業	実施日時	主な内容
第1回連絡会	<p>■令和5年 6月22日</p> <p>■メイトム宗像 202会議室</p>	<p>■報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育のご案内 →福祉教育の申込等説明 ・各校（園）の福祉教育の取り組みの報告 ・宗像市福祉教育セミナーの開催について ・福祉教育読本「ともに生きる」の活用と読后感想文コンクールの案内 ・福祉絵画コンクールについて ・認知症サポーター養成講座受講について ・ジュニアボランティアスクール開催について ・おもちゃ図書館の開催状況について
第2回連絡会	<p>■令和6年 3月7日</p> <p>■オンライン開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育推進事業に係る報告書類の事務手続きについて ・おもちゃ図書館について

④福祉教育読本「ともに生きる」の配布と活用の推進

- 事業説明：市内の小学5年生を対象に福祉読本および教材「ともに生きる」を配付し、読後感想文を募集して、優秀な感想文を表彰した。また、作品集「ともだち」を作成し、本会ホームページにて公開した。
- 活動内容：受賞者に記念品及び参加賞を贈呈した。
- 対象児童：市内全小学校 5年生
- 応募数：89作品（14校）
- 作品展示：11月21日～11月30日 メイトム宗像1階 健診室廊下側壁面
- 作品集発行：作品集「ともだち」配付先：全受賞児童、市内の保育園・幼稚園、小・中・高等学校および市教育長、市民図書館等、計120部

⑤福祉絵画コンクールの開催

- 事業説明：福祉教育推進校（園）等の子どもたちとその保護者に、福祉への関心を高めてもらうため「思いやり・優しさ」をテーマに絵画コンクールを実施。
- 活動内容：受賞者に記念品及び参加賞を贈呈した。
- 応募対象：市内全保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の児童生徒
- 作品展示：11月21日～11月30日 メイトム宗像1階 健診室廊下側壁面
- 作品集発行：作品集「ともだち」配付先：全受賞児童、市内の保育園・幼稚園、小・中・高等学校および市教育長、市民図書館等、計120部

参加作品総数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		646作品	518作品

(2) 社会福祉援助技術現場実習生の受け入れ

- 事業説明：将来、社会福祉の専門職又は専門資格を取得することを目的として、社会福祉の現場（本会）で実習を希望する者の受け入れを福祉教育の一環として行った。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実習生 受入実績	<ul style="list-style-type: none"> ■F・Cフチガミ医療福祉専門学校 1人 期間:8月10日～9月13日（実質24日間） ■九州医療専門学校 1人 期間:8月10日～9月13日（実質24日間） 	<ul style="list-style-type: none"> ■F・Cフチガミ医療福祉専門学校 1人 ■筑紫女学園大学 1人 期間:8月9日～9月14日（実質24日間） ■西南女学院大学 1人 期間:8月10日～9月14日（実質24日間） 	<ul style="list-style-type: none"> ■F・Cフチガミ医療福祉専門学校 2人 ■西南女学院大学 1人 期間:8月10日～9月15日（実質24日間） ■西南女学院大学 1人 期間:2月13日～2月22日（実質8日間）

(3) 宗像市福祉教育セミナーの開催

- 事業説明：福祉教育推進校（園）の教職員及び地域福祉の推進に関わる人に、福祉教育への理解と地域福祉への参画を推進するため、平成17年度から標記セミナーを開催している。

- 事業内容：【テーマ】福祉のまちづくりをめざす“つながり”の視点

- ・日時 令和5年8月2日(水)10:00～11:30
- ・会場 メイトム宗像 多目的ホール
- ・講師 特定非営利活動法人パパジャングル理事長

笑育心理カウンセラー 荒巻 仁（あらじん）さん

■参加者数：

参加者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	中止	73人 (内15人オンライン)	86人

10 活動財源の確保

(1) 共同募金・宗像市社協自動販売機の設置

■事業説明：社協自動販売機で飲料水等を購入した場合に、本会等に寄付が行われる「寄付つき商品型自動販売機」の設置を推進した。

■設置状況：設置台数 計17台

実績額	項目/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	手数料収入		572,361円	578,744円

(2) 香典返し・一般寄付等の高額寄付者への感謝状の贈呈と初盆参りの実施

■事業説明：香典返しの寄付と一般の寄付などの受け入れを行った。30,000円以上の寄付者に感謝状を贈呈し、50,000円以上の場合は初盆参りを実施した。

事業実績	項目/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	感謝状贈呈数	10件	10件	10件
	香典返寄付金	61件 (2,511,691円)	60件 (1,554,000円)	53件 (1,015,000円)
	一般寄付金	10件 (118,213円)	4件 (69,512円)	8件 (2,230,777円)
	計	71件 (2,629,904円)	64件 (1,623,512円)	61件 (3,245,777円)

(3) ファンドレイジング（資金調達）に関する事業の実施

①福祉機器貸出の有料化

■貸与品：車イス（自走式・介助式）

■対象者：高齢者及び傷病者の介護など、一時的に車イスを必要とする人

■料金等：運営協力費として1回500円

■期間：1～30日間（原則として1回1ヵ月以内。ただし、更新2回まで可）

■事業説明：高齢者及び障がいのある人などを対象に、一時的な車イスの貸し出しを行った。

事業実績	項目/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	延べ利用件数	178件	217件	238件
	運営協力費	89,000円	108,500円	119,000円

11 ボランティア活動・市民活動の促進

(1) ボランティアセンター事業の適切な運営

ボランティア登録事業実績		令和3年度	令和4年度	令和5年度
ボランティア登録	提供個人	11件	16件	35件
	提供団体	1件	3件	3件
	依頼個人	1件	3件	3件
	依頼団体	0件	12件	11件
	依頼申込個人	94件	137件	123件
	依頼申込団体	5件	44件	170件

ボランティア活動状況	件数	175件	248件	253件
	活動人数	1,064人	1,399人	1,450人
	調整数	472件	823件	841件
HPアクセス数	アクセス件数	2,508件	2,493件	7,702件
センター利用状況	窓口	1,210件	1,281件	1,298件
	電話	1,504件	1,273件	1,230件
	合計	2,714件	2,550件	2,528件

■ ボランティア活動分野別登録状況

	福祉	保健医療	環境	観光	国際交流	まちづくり	子ども	学習	合計
個人(人)	483	89	120	124	85	108	205	113	1,327
	37%	7%	9%	9%	6%	8%	15%	9%	100%
団体(団体)	61	6	8	5	5	7	14	8	114
	55%	5%	7%	4%	4%	6%	12%	7%	100%

※ボランティア活動分野別登録状況は、V-net 開設時（平成 14 年 3 月）からの累計。

②広報紙「ボラセンだより」発行事業

■事業説明：ボランティア活動の促進を目的として、主に市内のボランティア及びボランティア活動の状況などの情報を地域住民の視点に立って分かりやすく表現し、幅広い年齢層が興味を持つことができる広報紙を発行している。

■発行回数：年 2 回

■発行部数：800 部/回

■配布先：ボランティアネットワーク（提供・依頼）登録者及び団体、関連機関など

■実施内容：登録ボランティア（個人・団体）活動紹介、ボランティアセンター事業紹介、講座募集、ボランティア情報など

(2) ボランティア講座の開催

① ボランティア入門講座

■事業説明：ボランティア活動を始めたい人、始めて間もない人、ボランティア活動及びこの講座に関心のある人を対象に開催した。

■事業内容：盲導犬ユーザーを講師に招き「盲導犬に関わるボランティア」にスポットを当て、盲導犬には様々なボランティアさんが関わっている事についても学び、その中で私たちができる事を考え、今後のボランティア活動に活かしてもらった。今回は福祉ボランティア活動連絡協議会の研修も兼ねて開催し、講座最後には、新たな取り組み「むなかたボランティアシステム」の案内・説明をし、ボランティア活動への幅広い選択の機会とした

■実施日時：11月21日（火）14：30～16：15

■実施場所：メイトム宗像 結工房

■講師：盲導犬ユーザー 相浦和枝氏・盲導犬 Nick

参加者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	中止	25人	36人

②ジュニアボランティアスクール

■事業説明：小学生・中学生対象の福祉教育拡大・発展型のボランティア体験学習を、夏休み期間中に「ジュニアボランティアスクール」として実施している。

今回は「福岡ろう劇団博多」「ヒーリングボイスココベリーナ」「アイリッシュ系音楽ユニット 森和田」に協力を仰ぎ、『みんなで創るバリアフリーコンサート』をテーマに、2日半に渡って開催した。障がいがある人、ない人、聞こえる人、聞こえない人が共に楽しめる垣根

のないコンサートづくりを目標に「障がい」「高齢者」「車いす」についても理解を深めながら、ワークショップ形式で子どもたちも一緒に企画から考え、音楽に手話を交えた表現でバリアフリーコンサートを開催、披露した。誰もが安心して暮らす社会になるために、今の自分にできる事を考え、可能な範囲で自分自身の役割を見つけ、実行できることを目標とし、講座参加者全員を「子ども福祉員」に任命した。

■実施場所：メイトム宗像内 会議室他

実施時期	内容
7月24日(月)	<input type="checkbox"/> 開講式・オリエンテーション・アイスブレイク <input type="checkbox"/> 障がいがある事について知る・考える ・絵本:「どんなかんじかなあ」読み聞かせ ・福岡ろう劇団博多 鈴木玲雄氏の話 <input type="checkbox"/> バリアフリーについて考える ・言葉の意味について ・バリアフリーコンサート「わたしと小鳥と鈴と」を見て考え話し合う <input type="checkbox"/> 手と身体でうたおう、表現ワークショップ ・課題曲の手話表現を考える ・作詞・作曲者の思いをイメージして表現する ・グループに分かれて手話表現づくり・練習 <input type="checkbox"/> ふりかえり学習
7月25日(火)	<input type="checkbox"/> 朝の会 <input type="checkbox"/> 車いす体験 ・車いすの操作方法・適切なサポートについて学ぶ ・車いすで館内のチェックポイントを周りながらコンサートの案内 <input type="checkbox"/> バリアフリーコンサートに向けて練習・準備 「プログラムについて」「必要なもの確認」「役割分担」 <input type="checkbox"/> バリアフリーコンサート本番に向けて会場準備リハーサル <input type="checkbox"/> バリアフリーコンサート開場 ・受付、案内、介助が必要な方のサポート <input type="checkbox"/> バリアフリーコンサート開演 ・はじめの挨拶、演奏スタート、質疑応答、終わりの挨拶 <input type="checkbox"/> ふりかえり学習
7月26日(水)	<input type="checkbox"/> 朝の会 <input type="checkbox"/> グループワーク・ジュニボラプレスづくり、発表 <input type="checkbox"/> 子ども福祉員任命式

協力団体:「福岡ろう劇団博多」「ヒーリングボイスコペリーナ」「アイリッシュ系音楽ユニット森和田」
 「手話サークルシュワッチ」「玄海手話サークルゆび」

参加者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	中止	14人	11人

(3) ボランティア活動との連携・支援強化

■事業説明：福祉ボランティア活動連絡協議会の役員会・運営委員会への参加・助言。自主研修会、総会などについて助言・指導。各ボランティアグループへの個別指導・助言。福祉教育現場での参加支援。行政や各施設で行われるイベントへの参加支援。現在、11団体が所属している。

■活動支援の内容

実施事業	実施時期	主な活動内容
定期総会	令和4年 4月	総会：4月20日実施
運営推進委員会	月1回	毎月1回開催の定例会議
連絡会	月1回	毎月第1水曜：午後開催
役員研修	6月3日	NPO法人抱樸・希望のまち主催 東京演劇集団「風」バリアフリー演劇『Touch』鑑賞 場所：ウェルとばた大ホール 参加人数：3人
全体研修	7月1日	テーマ：自然災害疑似体験・講義 場所：福岡市民防災センター 参加人数：16人
役員研修	8月23日	テーマ：笑いと健康・笑いヨガ いきいきシニア世代の健康づくり講座受講 場所：日本赤十字九州国際看護大学 参加人数：9人
参加・協力	2月18日	ふくおか「きずな」フェスティバルへの参加・協力 ■場所：クローバープラザ（春日市） ■参加人数：8人 ■基調講演 ボランティア活動の『いま』と『これから』～コロナ禍を越え「お客様」から「地域の築き手」に！～ 講師：早瀬昇氏（大阪ボランティア協会理事長） ■ボランティア活動別分科会 ■親子で楽しめるイベント
参加・協力		■随時：福祉教育・オレンジカフェの協力 ■7月25日ジュニアボランティアスクール・バリアフリーコンサートへの参加・協力 ■8月2日福祉教育セミナー「福祉のまちづくりをめざす“つながり”の視点」参加・協力
広報活動	4月と9月	ボラ連だより「あ・し・た」の発行（第10号・11号）
	随時	活動紹介チラシの作成・配布

■宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会へ活動費補助金の交付及び活動支援

補助金交付額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	450,000円	510,000円	510,000円

②ボランティア保険加入補助

■事業説明：V-netに登録している個人、団体ボランティア、福祉会のボランティアなどがボランティア活動保険に加入した際に、その保険料一人当たり175円を補助した。

合計補助金額	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	280,000円	210,000円	245,000円

③ボランティア活動振興基金積立事業

■事業説明：福祉ボランティア活動振興基金の基金果実を含め、福祉ボランティア活動連絡協議会に助成した。

実績額	項目/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	助成金額		10,000円	10,000円

12 赤い羽根共同募金運動への協力

(1) 共同募金への協力

■組織体制

福岡県共同募金会の支部組織「福岡県共同募金会宗像市支会」として、理事会を開催。当該年度の募金目標額及び募金活動の議事について審議、決定した。理事は、地区自治会長会代表 12 人、民生委員・児童委員協議会会長 1 人、商工会 1 人、シニアクラブ連合会会長 1 人、市執行部（健康福祉部長）1 人、識見を有する者 1 人（社会福祉協議会会長）により構成されている。

■福岡県共同募金会宗像市支会

「福岡県共同募金会宗像市支会」（事務局：社会福祉協議会）として、募金活動を行った。

■募金方法と募金実績額

毎年 10 月 1 日～12 月 31 日までの間で募金活動を実施。

年度実績		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
項目	■戸別募金	9,627,727 円	9,301,620 円	8,759,291 円
	■街頭募金	81,670 円	135,755 円	191,462 円
	■学校募金	104,500 円	94,235 円	157,183 円
	■職域募金及び資材を活用した募金	676,868 円	616,467 円	611,618 円
	■イベント募金	100,378 円	79,069 円	94,315 円
	■個人募金、その他	392,951 円	270,893 円	277,688 円
	実績額合計	10,984,094 円	10,498,039 円	10,091,557 円

■配分実績

募金実績額に対する福岡県共同募金会から宗像市支会への配分先と配分金額。

	配分先	配分金額
■地域配分 (B 枠) 福岡県共同募金会から宗像市社会福祉協議会に対し、申請に基づいて配分される。本会の理事会・評議員会で承認された地域福祉活動を行うための事業費。	高齢者福祉に	840,000 円
	児童・青少年福祉に	538,300 円
	障がい児・者福祉に	1,557,000 円
	子育て支援活動に	45,000 円
	ボランティア活動に	534,000 円
	福祉活動の支援に	2,732,000 円
	情報提供・啓発活動に	850,000 円

(2) 歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分（再掲）

※7 低所得者福祉事業の推進 (2) 歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分を参照 (P27)。

13 障害者生活支援センター運営事業

■宗像市委託事業

(1) 障害者生活支援センター事業

■事業説明：基幹相談支援センターとして、市における相談支援の中核的な役割を担うとともに、宗像市に居住する障がい者に対し、障がい福祉サービスの利用促進、および各種情報の提供、相談・助言等を総合的に行うことにより、障がい者及びその家族の地域における生活を支援し、障がい者の自立と社会参加の促進を図ることを目的とする。

■事業内容：○基幹相談支援センターの充実
 ○自立支援協議会の充実
 ○地域の相談支援体制の強化
 ○地域移行・地域定着支援の推進
 ○障害者虐待防止センターの充実

- 成年後見制度の利用促進
- 障害者団体の組織化と自立支援
- ピアサポート機能の充実・強化
- 登録手話通訳者等派遣事業の充実
- 障害者差別解消法の啓発に関する取り組み

■職員体制：○センター長 1人

○相談員 3人

○ピアカウンセラー 4人

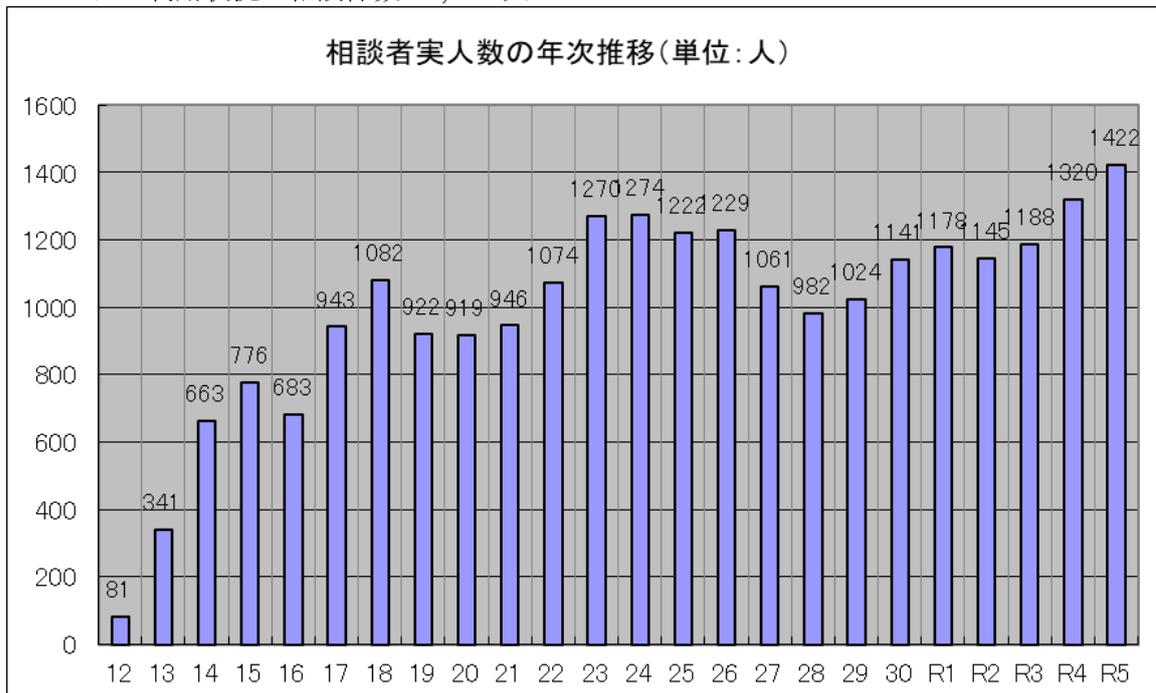
■開所日時：①月・火・水・木・金曜日（8時30分～17時）

※土・日曜日・国民の祝日・年末年始は定休日

②ピアカウンセリング（10時～15時）

※月・水曜日（第2、4）

■センター利用状況・相談件数：1,422人



■相談実績件数①（区分別）

項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	訪問系サービスの利用に関すること	371	352	349
2	通所系（就労以外）サービスの利用に関すること	326	220	275
3	入所系サービスの利用に関すること	276	391	378
4	外出系サービスの利用に関すること	147	82	81
5	就労系サービスの利用に関すること	442	582	518
6	日常生活用具・補装具に関すること	33	39	26
7	地域移行支援・地域定着支援に関すること	6	5	5
8	児発・放デイ・保育所等訪問支援の利用に関すること	356	409	457
9	計画相談支援に関すること	951	1,009	948

10	手話・代筆・点字等のコミュニケーションに関すること	33	35	34
11	医療的なケアが必要な支援に関すること	55	53	31
12	年金・手帳・自立支援医療等に関すること	161	89	102
13	介護保険制度等に関すること	136	159	239
14	権利擁護・成年後見制度等に関すること	69	31	26
15	虐待・虐待予防等に関すること	154	114	207
16	災害時・緊急時の支援に関すること	63	2	4
17	障害者差別・合理的配慮に関すること	5	8	3
18	家族関係・対人関係に関すること	628	579	643
19	障がいや病状の理解、ひきこもりに関すること	56	89	92
20	健康・医療に関すること	836	847	1,034
21	保育・教育、子育てに関すること	253	409	561
22	家計・経済的な生活困窮に関すること	130	151	198
23	金銭管理に関すること	199	170	162
24	社会参加・余暇活動に関すること	30	24	22
25	住居に関すること	101	163	129
26	犯罪行為、触法、法律に関すること	8	45	58
27	ピアカウンセリングに関すること	2	3	2
28	専門機関等の紹介に関すること	30	45	31
29	生活・福祉等の情報提供に関すること	249	402	424
30	その他必要な生活支援に関すること	1,114	931	1,021
計		7,220	7,438	8,060

■相談実績件数②（相談方法別）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①来所	1,415	1,621	1,763
②電話	3,713	3,717	4,026
③文書（メール等）	58	37	41
④訪問	514	363	383
⑤同行	137	161	182
⑥担当者会議	279	357	335
⑦個別支援会議	193	203	181
⑧関係者会議	911	979	1,149
計	7,220	7,438	8,060

■障がい種別件数①（障がい者）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①肢体不自由	559	544	393
②聴覚障がい	93	50	403
③言語障がい	6	20	0
④視覚障がい	289	107	212
⑤内部障がい	24	49	42
⑥発達障がい	298	360	523
⑦高次脳機能障がい	64	147	199
⑧知的障がい	1,046	1,220	1,449
⑨精神障がい	3,023	2,918	2,577
⑩難病	122	111	87
⑪重複障がい	188	28	56
⑫不明	240	238	204
⑬なし	65	60	46
計	6,017	5,852	6,191

■障がい種別件数②（障がい児）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①肢体不自由	65	56	120
②聴覚障がい	3	1	8
③言語障がい	0	0	0
④視覚障がい	0	0	0
⑤内部障がい	4	40	11
⑥発達障がい	519	877	838
⑦高次脳機能障がい	0	0	0
⑧知的障がい	301	239	192
⑨精神障がい	20	0	37
⑩難病	76	85	88
⑪重複障がい	36	43	148
⑫不明	175	199	404
⑬なし	4	46	23
計	1,203	1,586	1,869

(2) 障害者生活支援センター主催事業

①ピアサポート事業

■事業説明：ピアサポーターと利用者が事業を通じた交流により、身近な相談相手としての周知を行うとともに、当事者間のネットワークを構築することを目的としてピアサポート事業を実施。

■参加費：無料（実費負担あり）

■実施内容

実施日	内容	参加人数	場所
7月2日	『ゆったり茶話会①～手話教室～』	8	河東コミュニティ・センター
10月29日	『ゆったり茶話会② ～ハロウィンパーティー～』	5	メイトム宗像

3月17日	『ゆったり茶話会③～パフェ作り～』	8	メイトム宗像
-------	-------------------	---	--------

②ピアサポーターだより「すまいる」発行事業

- 事業説明：ピアサポーターの活動や障がい福祉サービス、市内の社会資源、ボランティア等の情報を当事者や市民、関係機関等に周知し、情報を共有することを目的に広報紙を発行。
- 発行回数：年1回
- 発行部数：710部/回
- 配布先：各障がい者施設、当事者団体、関係機関等
- 実施内容：事業紹介、社会資源の情報、生活情報など

(3) 障害者生活支援センターのその他の関連事業

■会議や研修への参加・協力

会議・研修名	実施時期
障害者自立支援協議会全体会	5月26日、12月12日
宗像市障害者自立支援協議会子ども部会	4月27日、7月12日、10月19日、11月22日、2月15日
宗像市医療的ケア児者支援連携会議	7月4日、11月9日、2月7日
宗像市障害者自立支援協議会ネットワーク会議 (障がい児含む)	6月29日、9月28日、3月27日
宗像市障害者自立支援協議会就労部会	4月27日、6月10日、3月7日
宗像市障害者自立支援協議会権利擁護部会	3月6日
宗像市障害者自立支援協議会地域移行・地域生活支援部会	7月25日、3月6日
宗像市精神障がい者支援連携会議幹事会	9月29日、12月11日、1月24日、3月4日
宗像市精神障がい者支援連携会議	10月25日、12月18日、2月2日、3月8日
障害者自立支援協議会事務局会議	12回実施
子どもの安全に関する研修会	5月12日
子育て支援・発達障害を知る講座	6月24日
宗像市要保護児童対策協議会代表者会議	6月26日
ひきこもり支援者研修会	7月4日
福岡県知的障がい者相談員研修会	7月21日
相談支援専門員初任者研修実習	8月1日～18日、9月12日、13日、10月18日、12月7日、8日
地域自立支援協議会担当者会議	8月23日、1月23日
福岡県身体障がい者相談員研修会	9月1日
宗像市障がい者施策推進計画検討委員会	8月10日、10月4日、11月14日、12月5日
福岡県障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	10月17日、11月7日
重層的支援体制整備事業にかかる相談支援機関相談員会議	11月16日
宗像・遠賀地域精神障がい者地域支援実務者会議	12月12日
児童発達支援7者協議	1月4日
宗像・遠賀地域在宅医療推進協議会（難病対策地域協議会）	1月18日
宗像・遠賀地域こころの健康づくり講演会	2月21日
宗像市成年後見ネットワーク会議	3月19日

(4) 宗像市登録手話通訳者等派遣事業

■事業説明：聴覚、言語機能または音声機能の障がいのため他者との意思疎通を図ることに支障がある障がい者等に対し、市が登録した手話通訳者または要約筆記者を派遣し、意思疎通の円滑化を図ることを目的に事業を実施。

■派遣申請者数（人数）

派遣申請者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	22	27	30

■内容（件数）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
① 手続・相談	0	6	4
② 教育	0	0	0
③ 医療・保健	21	21	26
④ 就職活動	0	0	0
⑤ その他	1	0	0
計	22	27	30

■区分（件数）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
① 手話通訳等	22	27	30
② 要約筆記等	0	0	0
計	22	27	30

(5) 宗像市障害者虐待防止センター事業

① 宗像市障害者虐待防止センター事業実績報告

■事業説明：「障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」により平成24年度から宗像市の委託事業として受託。障がい者虐待の早期発見と発生防止ならびに障がい者虐待が起きないように個々のケース対応を充実するとともに、市民や障がい福祉サービス事業者への周知が主な役割。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
① 通報受理	5件	3件	7件
② 事実確認実施	13件	6件	20件
③ 虐待と判断	1件	1件	3件
④ 相談・指導・助言	8件	6件	2件
⑤ 実人数	5人	3人	7人

② 家庭訪問等個別支援事業

■障がい者虐待の未然防止のため、過去に虐待があった障がい者の家庭等を訪問し家族関係の修復や不安の解消に向けた支援を行う。

■家庭訪問件数：0件

■人数：0人

③ 宗像市障害者虐待防止研修会の実施

■事業説明：障がい者虐待防止や早期発見、適切な支援につなげるため、市内の障がい福祉事業所を対象に、障がい者虐待防止及び権利擁護への理解を深める研修を実施した。

■動画配信期間：令和5年12月1日から22日まで

■申し込み事業所数：35事業所

■テーマ：「施設・事業所における障害者虐待防止とその方法」

■講師：弁護士法人 翼・篠木法律事務所 代表弁護士 篠木 潔氏

14 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業

(1) 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業（宗像市指定管理業務）

■事業説明：大島福祉センター「ふれ愛センター」の指定管理を受け、社会福祉協議会が施設を管理・運営している。

■大島福祉センター「ふれ愛センター」年間利用者集計表

	高齢者	一般	中学生以下	島外	計	対前年比較
令和5年度	2,006人	128人	71人	130人	2,335人	445人
令和4年度	1,678人	125人	21人	66人	1,890人	92人
令和3年度	1,574人	106人	63人	55人	1,798人	

■利用施設別延べ利用者数

	1階ホール	1階会議室	2階会議室	いこの部屋	調理実習室	計	対前年比較
令和5年度	2,227人	2,115人	0人	5人	7人	4,354人	816人
令和4年度	1,762人	1,750人	3人	23人	0人	3,538人	158人
令和3年度	1,734人	1,619人	8人	19人	0人	3,380人	

■施設利用料金実績及び施設稼働日数

	稼働日数 (日)	1階ホール (円)	1階会議室 (円)	2階会議室 (円)	調理実習室 (円)	計 (円)	対前年比較 (円)
令和5年度	248	15,700	4,880	0	4,250	24,830	15,570
令和4年度	248	6,150	3,110	0	0	9,260	4,080
令和3年度	249	3,260	1,920	0	0	5,180	

(2) いきがい活動通所事業（大島ミニデイサービス：宗像市指定管理業務）

■事業説明：虚弱高齢者及び単身高齢者などを対象に、生きがいつくりと心身機能の維持向上を図るため、食事・入浴・レクリエーション等の活動を行う。

利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	1,516人	1,577人	1,687人
	対前年比較	61人	110人

(3) 配食サービス（市委託事業）

■事業説明：「食」に課題のある高齢者等を対象に、栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、見守りを行う。

利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	962人	1,075人	1,093人
	対前年比較	113人	18人

15 指定介護保険事業の適切な運営

(1) 訪問介護事業

■事業説明：福岡県指定の訪問介護事業所として、訪問介護計画に基づく訪問介護サービスの提供を行う。

延べ利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	575人	543人	534人
	対前年比較	-32人	-9人

(単位：人)

要介護度別 延べ利用者数	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	対前年 比 較
令和 5 年度	295	92	47	56	44	534	-9
令和 4 年度	269	118	43	73	40	543	-32
令和 3 年度	329	147	19	51	29	575	

要介護に占める 要介護 1・2 の割合	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	82.8%	71.3%	72.5%

(2) 従前相当訪問サービス・訪問型サービス A 居宅介護支援事業

■事業説明：宗像市指定の介護予防・日常生活支援総合事業第 1 号訪問事業所として、訪問介護サービスを行う。

利用者数	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
要支援 1	67 人	74 人	78 人
要支援 2	167 人	188 人	250 人
サービス A	71 人	72 人	23 人
計	305 人	334 人	351 人
	対前年比較	29 人	17 人

(3) 居宅介護支援事業

■事業説明：介護保険利用者の立場に立ち、居宅介護支援サービスの作成・管理・更新等を行い、個々の利用者に最適な介護サービスの提供を行う。

(介護予防支援事業含む。単位：人)

要介護度別 延べ利用者数	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	対前年 比 較
令和 5 年度	0	0	541	397	313	162	72	1,485	-74
令和 4 年度	0	0	563	489	206	168	79	1,559	-285
令和 3 年度	0	0	667	610	313	147	107	1,844	

(4) その他の事業

ホームヘルパーステーション

① 新型コロナ・インフルエンザ等感染症拡大防止対策の徹底

■国県市による感染拡大防止施策に努めた。
研修や会議を積極的にリモートで実施した。

② 経営改善計画の実践

■経営改善計画による経営改善に努めた。
■県市の高齢者施設等物価高騰対策支援金等の給付申請を行った。
■働き方改革等による「賃金」や「手当」「休暇」に関する改善を行った。
■新たに処遇改善支援補助金制度（令和 6 年 2～6 月）の申請を行った。

③ 法令遵守に関する取り組み

■介護保険法及び障害者総合支援法による変更届
役職員の異動等にとまなう変更届
■集団指導への参加

■「居宅介護・同行援護」事業の指定更新
「居宅介護・同行援護」事業の福岡県による指定更新を行った。

■令和 6 年度介護保険法改正及び介護報酬等改正への対策と準備
自然災害編と感染症編の事業継続計画（BCP）を指定事業別に策定した。また職員研修を

実施した。

■「衛生管理等に関する指針」「虐待防止（身体拘束）の指針」を策定した。

※令和6年度以降BCPや各指針を策定していない場合は減算になる。

※「虐待防止（身体拘束）の指針」に基づき法人とは別に事業所における「虐待防止委員会」や職員研修を開催した。

■第3者委員会の開催

第3者委員へ主に前年度の苦情等の状況について報告・説明を行った。

■アルコール検知器使用義務化への対応

道路交通法の改正により、社用車を使用する職員へのアルコール検知器による検査を開始。

④職員研修の実施

■特定事業所加算の取得条件により各職員の研修計画に基づき各種研修を実施・受講した。

居宅介護支援センター

①新型コロナ・インフルエンザ等感染症拡大防止対策の徹底

■国県市による感染拡大防止施策に努めた。

研修や会議を積極的にリモートで実施した。

②経営改善計画の実践

■経営改善計画による経営改善に努めた。

■県市の高齢者施設等物価高騰対策支援金等の給付申請を行った。

■働き方改革等による「賃金」や「手当」「休暇」に関する改善を行った。

③法令遵守に関する取り組み

■介護保険法による変更届

人事異動等にもなう変更届

■集団指導への参加

■令和6年度介護保険法改正及び介護報酬等改正への対策と準備

自然災害編と感染症編の事業継続計画（BCP）を指定事業別に策定した。また職員研修を実施した。

■「衛生管理等に関する指針」「虐待防止（身体拘束）の指針」を策定した。

※令和6年度以降BCPや各指針を策定していない場合は減算になる。

※「虐待防止（身体拘束）の指針」に基づき法人とは別に事業所における「虐待防止委員会」や職員研修を開催した。

■第3者委員会の開催

第3者委員へ主に前年度の苦情等の状況について報告・説明を行った。

■アルコール検知器使用義務化への対応

道路交通法の改正により、社用車を使用する職員へのアルコール検知器による検査を開始。

④職員研修の実施

■特定事業所加算の取得条件により各職員の研修計画に基づき各種研修を実施・受講した。

16 指定障害福祉サービス事業の適切な運営

■事業説明：障がいのある人の介護、家事の支援や視覚障がい者の外出支援を行う。

利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	132人	155人	172人
	対前年比較	23人	17人

(2) 障害者総合支援法による地域生活支援事業（移動支援）

■事業説明：障がいのある人の外出支援を行う。現在、宗像市・福津市・岡垣町の指定を受けている。

利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	49人	51人	54人
	対前年比較	2人	3人

17 市受託事業の適切な運営

(1) 要介護認定調査業務

■事業説明：市からの委託を受けて、要介護認定調査を行う。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
要介護認定調査件数	1,202件	1,336件	1,359件
	対前年比較	134件	23件

(2) ひとり親家庭等日常生活支援事業

■事業説明：一人親家庭で特別な事情により支援員による家事支援が必要な世帯に家事支援活動を行う。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	0人	0人	0人
	対前年比較	0人	0人

(3) 養育環境改善育児家事支援事業

■事業説明：児童虐待（ネグレクト）等により、子どもの養育環境に問題がある世帯に対して支援員による家事支援活動を行う。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	17人	4人	13人
	対前年比較	-13人	9人

(4) 新型コロナウイルス対策児童一時預かり事業

■事業説明：すべての保護者が新型コロナに感染し、自立が困難な子どもだけが家庭内に取り残された場合において、その子どもを一時預かり見守りや生活支援、感染確認等を支援員が行う事業。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	0人	0人	0人
	対前年比較	0人	0人

(5) いきがい活動通所事業（大島ミニデイサービス）【再掲】

※14 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業（2）いきがい活動通所事業を参照（P43）。

18 スマイルハート事業

(1) スマイルハート事業

■事業説明：介護保険適応外の家事援助サービス及び身体介護サービスを提供し、在宅での自立支援を行う。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延べ利用者数	235人	274人	259人
	対前年比較	39人	-15人

19 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業

■宗像市委託事業

(1) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業

- 事業種別 ①児童発達支援事業【療育関係業務】
②障害児相談支援事業【計画相談支援関係業務】
- 事業説明 ①児童発達支援事業
児童発達支援とは、障がい児通所支援の一つで、小学校就学前の6歳までの障がいのある子どもが主に通い、支援を受けるための施設です。日常生活の自立支援や機能訓練、療育などを行い、保育園や幼稚園のように遊びや学びの場を提供するなど障がい児への支援を行います。宗像市では、子どもとその保護者に対して、通園による療育を行っている。実施主体は宗像市で、社会福祉協議会が受託・運営している。
- ②障害児相談支援事業
障がい児相談支援とは、障がい児が障がい児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する前に障がい児支援利用計画を作成し（障がい児支援利用援助）、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリングを行う（継続障がい児支援利用援助）等の支援を行う。
- 事業内容 ①個別と小集団の保育活動を中心とした総合的な療育と支援を行う。
②作業療法士による機能訓練及び感覚統合訓練、言語聴覚士によるコミュニケーション支援など利用者への直接的な支援と、子どもに関する保護者の悩みに対し、専門的なアドバイスをする間接的な相談支援を行う。
③水泳の指導を専門の指導員が週1回行う。（金曜日）
④嘱託医による定期的な健診とカンファレンスを通じて、保護者及びスタッフに対し、小児神経科医の専門的なアドバイスをを行う。

(2) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業実績

① 年齢別・男女別・障がい別・園児状況（令和6年3月末 登録者統計）

年齢	男子	女子	障がい区分							累計	
			発達障害		知的障がい	未診断	視覚障がい	聴覚障がい	重複障がい		その他
			知的有	知的無							
1歳	0人	1人	1人							1人	
2歳	7人	4人	1人	2人		8人				11人	
3歳	24人	14人	5人	4人		28人			1人	38人	
4歳	62人	15人	7人	6人		62人			2人	77人	
5歳	63人	25人	16人	15人		56人			1人	88人	
計	156人	59人	30人	27人		154人			4人	215人	

- 運営体制 ①園長 1人
②管理者 1人（兼居宅介護課長）
③児童発達支援管理責任者 1人
④相談支援専門員 2人
⑤相談員補助 1人
⑥指導員 9人
⑦言語聴覚士 1人
⑧作業療法士 1人
⑨プール指導員 1人
⑩託児スタッフ 4人
⑪事務員 1人
⑫嘱託医 0人

②月別療育日数、実績人数

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
療育日数	20	20	20	20	21	20	21	20	20	20	20	20	242日
実績延人数	181	244	292	282	315	330	385	380	370	341	349	301	3770人
今年度一日 平均利用人数	9.1	12.2	14.6	14.1	15.0	16.5	18.3	19.0	18.5	17.1	17.5	15.1	15.5人
前年度一日 平均利用人数	7.9	15.7	9.6	14.2	12.3	15.0	11.6	19.2	13.9	14.4	16.6	14.4	13.7人

③ 園児数の推移

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入園者数	27	4	13	11	14	11	26	10	2	0	0	0	118人
退園者数	0	2	1	1	0	1	0	0	3	0	1	88	97人
今年度 登録人数	133	135	147	157	171	181	207	217	216	216	215	217	
前年度 登録人数	139	157	163	178	183	188	197	202	202	204	203	205	

④兄弟児託児状況

■事業説明：保護者が子どもとしっかり向き合えるよう、療育、勉強会、保護者会などに参加する時間帯に兄弟児の託児を行っている。託児の利用料は、一回につき500円～1,000円を徴収。

■運営体制：登録18人

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度託児 延べ利用人数	9	9	13	7	14	11	12	15	13	9	14	16	142人
前年度託児 延べ利用人数	15	16	15	15	16	10	7	15	13	19	9	8	158人

⑤ 送迎利用状況

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度送迎 延べ利用回数	28	28	39	54	56	60	81	87	74	65	87	56	715回
前年度送迎 延べ利用回数	48	96	60	82	56	68	59	86	82	69	82	65	853回

(3) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」訓練等の状況

①言語聴覚士の関わり（週5回。1人体制。個別療育・個人懇談・関係機関との連携等）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度 個別療育	34	43	46	40	44	61	74	71	72	77	74	65	701人
前年度 個別療育	60	69	58	81	72	75	77	79	60	73	77	75	856人
今年度集団 (ことば遊び)	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4回

②作業療法士の関わり（週1回程度。個別療育・個人懇談・関係機関との連携等）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度 個別療育	9	14	18	14	21	15	22	18	18	18	20	19	206人
前年度 個別療育	18	18	25	21	27	25	25	28	25	24	16	21	273人

③保育の個別

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度個別 保育実績	23	31	45	36	41	40	42	47	41	27	35	28	436人
前年度個別 保育実績	32	38	35	28	50	46	30	56	55	47	54	55	526人

④囁託医の健診・ケースカンファレンス（年0回実施）

実施時期	参加者数	主な活動内容
未実施	0人	

（4）ぱんだルームの状況

■事業説明：宗像市乳幼児健診後のフォロー事業として、専門的な支援が必要な幼児を対象に、遊びを通して子どもの発達と子育てを支援。月に1～2回程度開催。

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数	0	1	3	2	1	3	2	2	2	2	1	1	20回
延べ 利用人数	0	6	15	10	3	13	8	14	7	7	4	4	91人

（5）障害児相談支援事業の取り組み

■事業説明：障がい児相談支援とは、障がい児が障がい児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する前に障がい児支援利用計画を作成し（障がい児支援利用援助）、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリングを行う（継続障がい児支援利用援助）等の支援を行う。

単位：人

延べ利用者数 ／項目	新規	更新	変更	終了	モニタ リング	計	対前年 比較
令和5年度	134	194	75	2	396	801	448
令和4年度	132	143	54	7	17	353	▲124
令和3年度	138	172	42	118	7	477	115
令和2年度	101	103	38	12	108	362	

（6）その他の取り組み

①児童発達支援事業の適正な運営について。

- 事業計画書に基づく円滑で適正な事業運営に努めた。令和5年度から、「国保連請求業務」や「新規加算の取得」、「保育所等訪問支援事業」等の新たな取り組みを始めたが、大きな混乱なく実施できた。さらに業務効率を上げるため、新たな運営システムの導入も行った。
- 令和5年度中の策定を義務付けられた「業務継続計画」や「安全計画」を完了するとともに、各種の指針・マニュアル等に基づく研修や訓練、委員会の開催などの取り組みも進めた。

- 令和6年4月の報酬改定（制度改正を含む）が大幅な制度改正を伴うこととなったため、情報収集とともに安定した事業所運営を目指して対応策の検討を進めた。

②のぞみ園と地域資源（民間事業所・関係機関・幼稚園・保育所・小学校）との連携

- 昨年度同様、発達支援室との連絡会や7者会議を通じて、宗像市における障がい児施策の課題等について検討し、宗像市の関係部署と共に療育事業の今後のあり方について検討した。障害児施策にとって地域展開は重要であり、宗像市からは「のぞみ園」の「児童発達支援センター」化が打ち出され、今後の「のぞみ園」の役割等について改めて認識する契機となった。
- 卒園児の、学校との接続支援は重要であるため、入学前後の時期を重点期間と位置付け、入学後の学校生活が円滑に行えるように、今年度も学校との情報交換を行った。

③職員の資質向上に向けた研修会参加等の実施

■職員全体研修（法令研修含む）

- 4月3日 身体拘束等の防止と適正化について
- 4月3日 避難行動訓練
- 4月3日 のぞみ園の療育全般について
- 4月28日 職員の禁止行為、個人情報、障がい児への教え方
- 6月12日 食中毒・感染症予防研修
- 10月20日 職務倫理、個人情報とプライバシーについて
- 12月15日 虐待防止について
- 2月16日 グループにおけるサブスタッフの動きについて
- 3月19日 人権研修（法人主催）

■法令研修

- 7月4日 感染症予防研修
- 12月 市虐待防止研修会
- 12月～2月 集団指導（障がい福祉分野）

■資格取得・維持に関する研修

- 10月～12月 相談支援従事者初任者研修（受講：相談員1人）
- 12月21-22日 児発管実践研修（受講：指導員1人）

■技能・スキルアップ研修

- 5月26日 バス送迎安全管理研修（受講：園長）
- 5月30日 安全運転講習会（受講：園長）
- 2月 県苦情解決従事者研修会（受講：管理者）
- 2月26日 県虐待防止・権利擁護研修会（受講：児童発達支援管理責任者）

④ その他

- 4月27日 「就学相談」説明会
- 5月12日 市子どもの安全に関する研修会「機関連携～環境の理解と支援」
- 7月4日 保護者学習会「放課後等デイサービスについて」
- 8月24日 保護者学習会「あそびの味付け、さしすせそ」
- 10月24日 保護者学習会「心のつぶやき他」
- 11月8日 保護者学習会「サポートブック勉強会」
- 12月8日 「年長児交流会」
- 12月20日 市・子どもの安全に関する研修会「事例を通して子どもの安全を考えよう」
- 1月15日 市・子どもの安全に関する研修会「ゲーム・ネット依存の支援」
- 1月23日 保護者学習会「ことばを育てる関わり・ことばかけ」
- 3月17日 市民講演会「障がい理解と合理的配慮」（受講：管理者）

事業報告書資料集

■社会福祉協議会及び宗像市社会福祉協議会の概況

1. 社会福祉協議会の位置付け

(1) 社会福祉協議会の位置づけ

社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条に「地域福祉の推進を目的とする民間の中心的な団体」として規定されている。また、社会福祉協議会の組織構成や事業等も社会福祉法に定められており、その活動は「民間性」と極めて高い「公共性」が特徴である。

(2) 宗像市社会福祉協議会の位置づけ

本会は、前記の法的位置づけ、ならびにその特徴と事業実績により、宗像市の総合計画や各種福祉計画には、福祉行政の一翼を担い、民間の福祉活動を推進する中心的な団体として位置づけられてきた歴史がある。

(3) 宗像市社会福祉協議会の活動方針

本会の活動方針は、平成 27 年 10 月に第 3 次計画の見直しと次代に適応する社会福祉協議会活動の基本理念や実施計画等を取りまとめた第 4 次地域福祉活動計画（計画年度：平成 27～36 年度。以下「第四次計画」という。）による。第四次計画には、本会の基本的な活動方針として以下の項目を掲げている。

- ①住民主体・住民参画による社会福祉協議会活動の推進
- ②住民自治活動としての地域福祉の推進
- ③社会的包摂にむけた生涯学習としての福祉教育の推進
- ④行政および地域福祉推進団体などの協働者としての社会福祉協議会の確立
- ⑤利用者本位の福祉サービス供給体制の強化
- ⑥法人経営体制の強化

2. 宗像市社会福祉協議会の経過

年 度	主な内容
昭和 34 年度	・任意団体として宗像町社会福祉協議会が発足
昭和 45 年度	・社会福祉法人として認可
～昭和 57 年度	・東部児童館事業受託 ・老人・心身障害児・身体障害者家庭奉仕員派遣事業受託 ・ボランティア育成事業開始
昭和 60 年度	・福祉ボランティア活動連絡協議会設立 ・宗像市社会福祉協議会基盤強化計画書策定
昭和 61 年度	・福祉教育推進指定校事業開始
昭和 62 年度	・小地域福祉会組織化事業開始（地区福祉懇談会開始） ・障害児通園事業「のぞみ園」受託
昭和 63 年度	・宗像ユリックス内に社会福祉センター完成・本会移転 ・愛のネットワーク活動、福祉の里づくり事業開始 ・自由ヶ丘地区社会福祉会発足 ・電話訪問相談事業開始（～平成 10 年度）
平成元年度	・やさしさ宅配人（愛のネットワーク活動協力員）登録事業開始
平成 8 年度	・第一次地域福祉活動計画書策定
平成 9 年度	・在宅介護者組織化事業開始
平成 10 年度	・総合保健福祉センター「メイトム宗像」完成・本会移転
平成 12 年度	・介護保険制度の実施にともない居宅介護支援事業・訪問介護事業開始 ・要介護認定調査業務・軽度生活援助事業受託 ・障害者生活支援事業受託

平成 13 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター事業受託 ・在宅介護者の会ひまわり発足、在宅介護者組織化事業から支援事業へ
平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市・玄海町社会福祉協議会合併合同委員会設置 ・(新) 宗像市社会福祉協議会誕生 (平成 15 年 3 月 31 日)
平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・玄海 4 地区に小地域福祉会の組織化
平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市・大島村社会福祉協議会合併合同委員会設置 ・(新) 宗像市社会福祉協議会誕生 (平成 17 年 3 月 31 日) ・第二次地域福祉活動計画書策定
平成 17 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会福祉教育推進計画書策定
平成 18 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練 B 型 (いきいきふれあいサロン) 事業を介護予防いきいき交流会事業へ移行 ・障害者自立支援法による指定相談支援事業、障害福祉サービス事業、地域生活支援事業を開始
平成 20 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「メイトム宗像」が市民活動交流館としてリニューアル ・「宗像市ボランティアセンター」が市民活動ボランティア NPO センターの一部となる ・「のぞみ園」が発達支援センター療育施設の一部となる
平成 21 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の推進に関する市民の意識調査を実施 ・非常・災害時職員行動計画書 (平成 21 年度版) 作成 ・第三次地域福祉活動計画策定委員会設置
平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次地域福祉活動計画書策定 ・第二次経営改善計画策定 ・市窓口ワンストップサービス化に伴い、障害者生活支援センターが宗像市役所内に移転
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次福祉教育推進計画策定 ・東日本大震災救援・復興ボランティアとして職員を派遣
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市保健福祉会館 (ゆうゆうぷらざ) の閉館に伴い本会玄海支所を廃止 ・障害者基幹型相談支援センター事業を受託 ・宗像市障害者虐待防止センター事業を受託 ・宗像市社協自動販売機設置開始
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサポート事業開始 ・認知症サポーター養成講座事業を受託
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・福津市・古賀市社会福祉協議会と災害時相互協力協定を締結 ・宗像青年会議所と災害時相互協力協定を締結
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第四次地域福祉活動計画書策定
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次福祉教育推進計画書策定
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター活動支援事業を受託 (オレンジカフェの展開等)
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市社会福祉法人連絡会を設立 (事務局)
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市生活支援体制整備事業 (第 1 層・第 2 層 6 圏域) を受託
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化 50 周年 (記念広報誌を発行) ・第四次地域福祉活動計画の見直し
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・法人後見事業において、被後見人の支援を開始
令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市、日本赤十字九州国際看護大学、県社協連携による災害ボランティアセンター設置訓練を実施
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター資機材倉庫を設置 (3 市社協合同) ・むなかたボランティアシステムの運用開始

■用語の説明

【あ】

ICF

ICFは、2002（平成13）年にWHOが発表した国際生活機能分類である。ICFは、人間の生活機能と障がいについて「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の三つのレベルで構成される「生活機能」としてとらえる。この三つのレベルは、「生命」「生活」「人生」と言い換えることができる。「生活機能」の三つのレベルが相互に、また「健康状態（疾患等）」や「背景因子（環境因子と個人因子）」との間で、相互作用を行うことを重視するのがICFの生活機能モデルである。

いきいきふれあいサロン

当初福祉会が行っていた「ふれあい会食会」や「楽しく食べて語ろう会」などの【ふれあい活動】に、介護予防いきいき交流会事業（市委託事業）による在宅虚弱高齢者への介護予防活動や簡単な健康チェック、機能訓練などを行う【いきいき活動】が取り入れられた事業。高齢者のとじこもり防止の要素もある。活動内容は、口腔ケアや栄養指導、運動指導などの介護予防活動と簡単な健康チェック、学習会、機能訓練（レクリエーション）、交流事業などである。また、「いきいきふれあいサロン」に参加できない（参加しない）高齢者への対応として、小地域ネットワーク活動との連携強化をすすめている。

【か】

声の広報活動

視覚に障がいがある人々へ、宗像市の広報紙などをCD-Rに録音して情報を届ける本会の障がい者福祉活動。現在「日の里テープの会」「グリーンボイス」「森林都市うぐいす」の3団体にこの活動を委託している。

【さ】

社会的包摂

ソーシャルインクルージョン（social inclusion）は、「社会的排除」の問題を解決する社会政策の理念として語られる「社会的包摂」と同意語である。「排除と包摂」という概念は、古くから用いられてきたが、これらが社会政策の重要な概念として登場するのは20世紀後期のヨーロッパにおいてである。特にフランスでは、1970年代以降、社会的不適応者（薬物依存者や非行少年など）や若年長期失業者、移民労働者など、既存の福祉国家の枠組みでは対応することが困難な人々の抱える問題が「新たな貧困」や「社会的排除」などの社会問題として認識されるようになり、このような人々を社会復帰させることが、社会政策上重要だと考えられるようになった。

社会福祉法第四条

地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

小地域ネットワーク活動

主に民生委員と福祉会の地域ケア型ボランティア（名称は福祉委員や福祉員など様々）が協力して、単身高齢者・高齢者夫婦のみ世帯などの定期的な見守り・訪問活動、情報提供活動、できる範囲での生活援助活動などを行っている。小地域ネットワーク活動は、昭和63年に民生委員協議会創設記念事業「愛のネットワーク活動」として福岡県では開始されたが、現在では、福祉会などの日常的な「生活支援活動」として取り組まれている。

スマイルハート

宗像市社会福祉協議会独自の家事援助・軽介護サービス。障がい者や高齢者世帯等を対象に日

常生活に必要な家事援助・軽介護サービスをホームヘルパーが提供し、在宅で自立した生活ができるように支援する有償サービス。

生活困窮者世帯

厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」の報告書では、「生活保護に至る前の段階」「生活保護受給者」といった「経済的困窮者」が主な支援対象者として想定されているが、「地域から孤立している者」「複合的な課題を抱えている者」への対策の必要性も掲げられている。つまり、この報告書における生活困窮者とは、「経済的困窮」「孤立」「複合的課題」などの生活・地域問題を抱える人々のことで、具体的には「生活保護に至る前の段階」「生活保護受給者」といった「経済的困窮者」や「ひきこもりの人」や「ゴミ屋敷生活している人」、「ホームレス」「生活困難を抱える精神・知的・発達障がいがある人」などと考えられる。

生活福祉資金貸付制度

低所得者（離職者）または障がい者、高齢者を対象に、小口の資金貸し付けと必要な援助・指導を行うことにより、その経済的自立および生活意欲の助長促進、ならびに在宅福祉・社会参加の促進を図り、安定した生活を営めるようにすることを目的とした制度。実施主体は、福岡県社会福祉協議会。

ソーシャルインクルージョン (social inclusion)

※「社会的包摂」参照

【た】

地域包括ケアシステム

「地域包括ケアシステム」とは、介護が必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のこと。

地域共生社会

厚生労働省が掲げるビジョンで、2016年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」の内容に盛り込まれた項目。地域住民や地域の多様な主体が分野や属性の壁を越えた協働を実践し、誰もが支え合う地域を創っていくことを目指す。

【な】

ノーマライゼーション

一般的には「共生社会」と訳されることが多い。どのような障がい者や高齢者、児童であっても人格を尊重され、人として同じ権利を享受し、地域社会（在宅）で主体的な生活と社会参加が保障されるのが正常（ノーマル）な社会であるという思想に基づき、地域の人々の正常な生活を実現していく取り組みを意味する。今日的には地域福祉や共生の基本的思想である。

【は】

ファンドレイジング

ファンドレイジング (Fundraising) とは、民間非営利団体 (NPO) が、活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為の総称。主に民間非営利組織の資金集めについて使われる用語。社協では「自主財源の確保」に関連する事業に使われる。

福祉会

生活課題、福祉問題を抱える要援護者が生活する小地域を活動範囲とし、要援護者の福祉問題をその人だけの問題とせず、地域住民みんなの問題として捉え、その解決策を考えたり予防したりするために、地域住民が組織的に福祉活動を推進する住民の自主的な組織。現在一般には「福祉会」と呼ばれ、市内13コミュニティを活動範囲とする福祉会を「地区福祉会」、行政区を活動範囲とする福祉会を「小地域福祉会」という。